

326

特 235

773

昭和四年

三國夏季兒童保養所概況

社団法人 福井縣結核豫防會



\*0039833000\*

0039833-000

特 235-773

三國夏季兒童保養所概況

福井縣結核豫防會

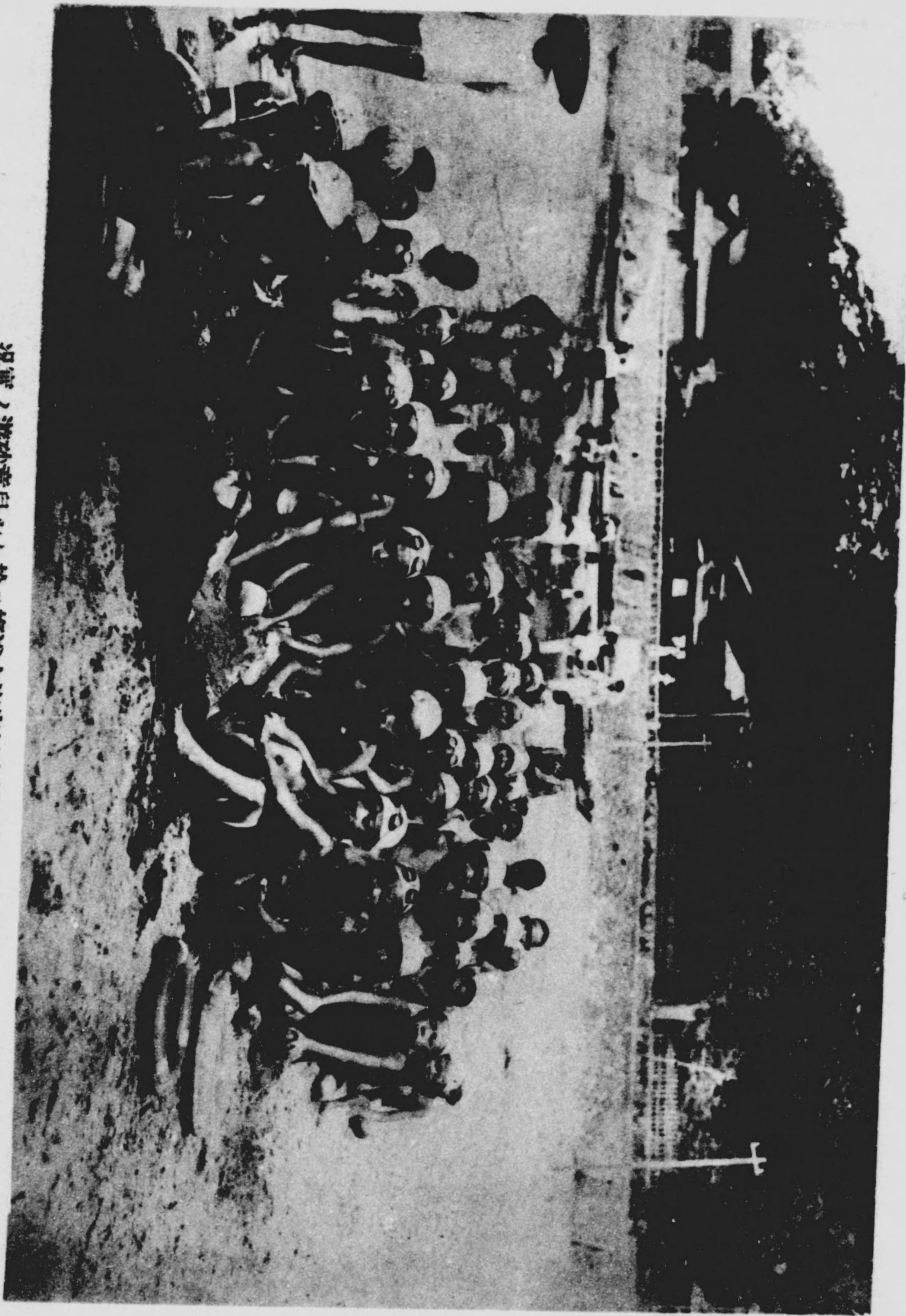
昭和4年

昭和4

AGI



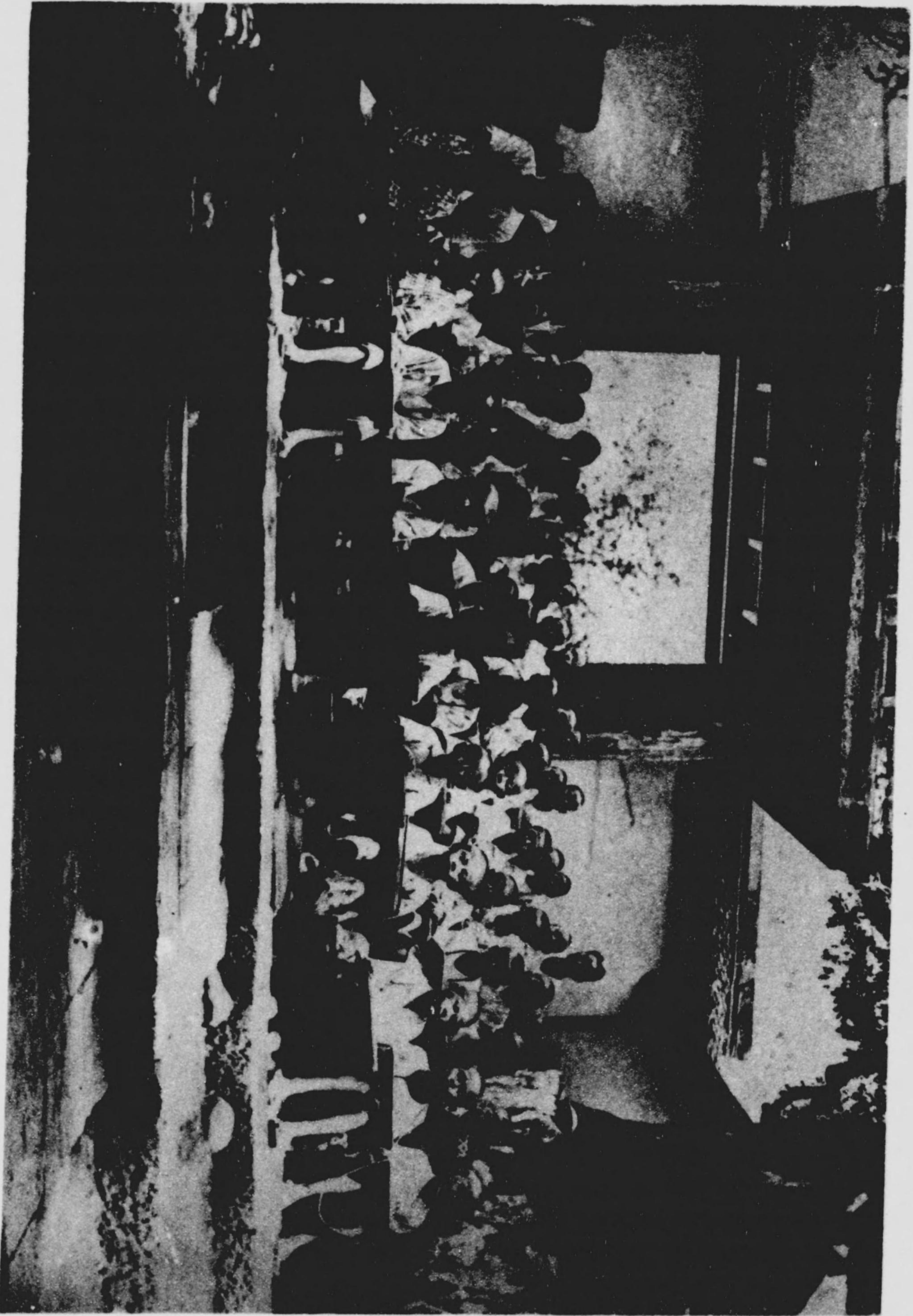
特235  
793



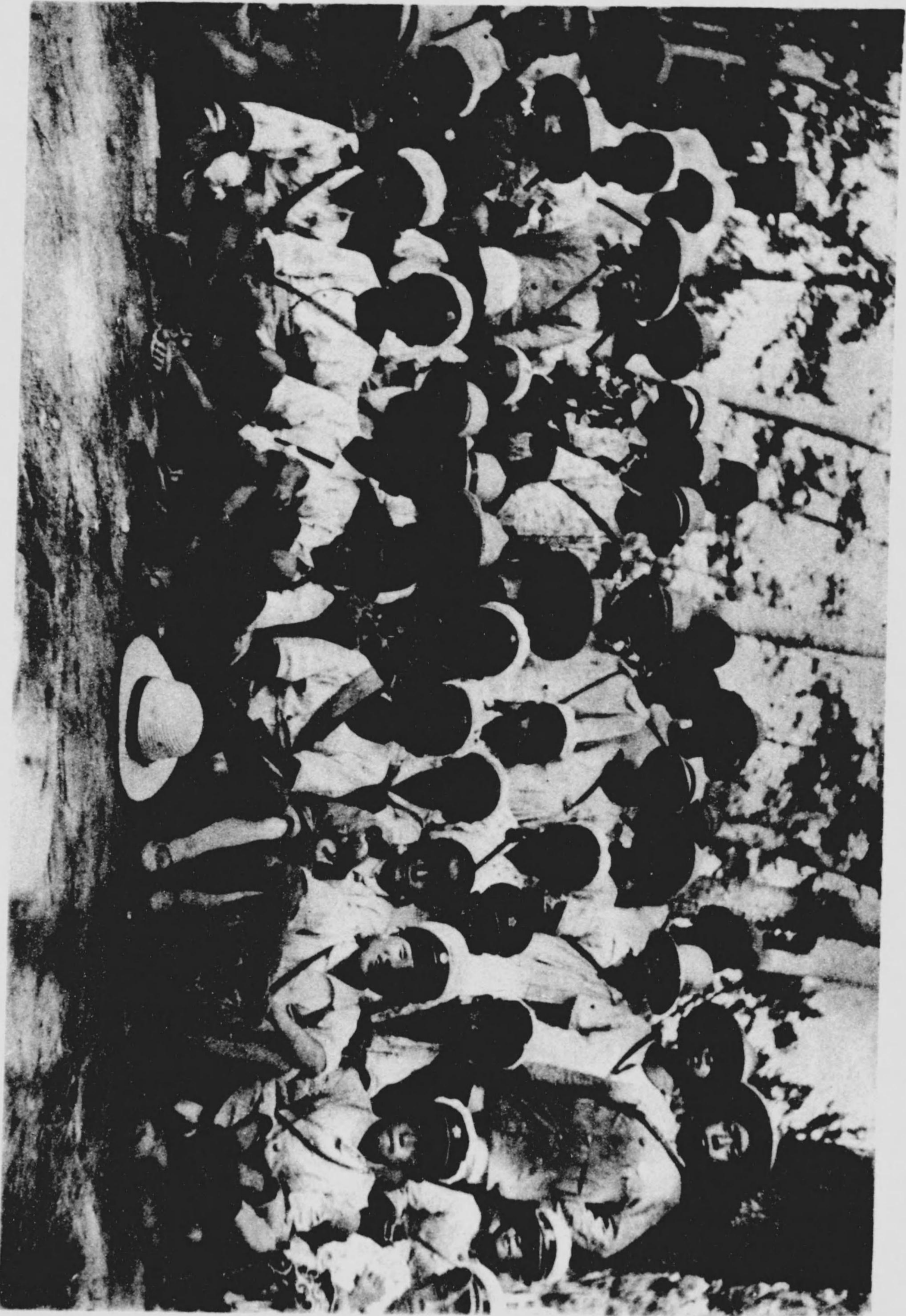
況實ノ遊砂童兒ルケ於ニ場浴水海宿村島雄郡井坂縣井福



福井縣井坂三國町谷瀧寺内於兒童學習之實況







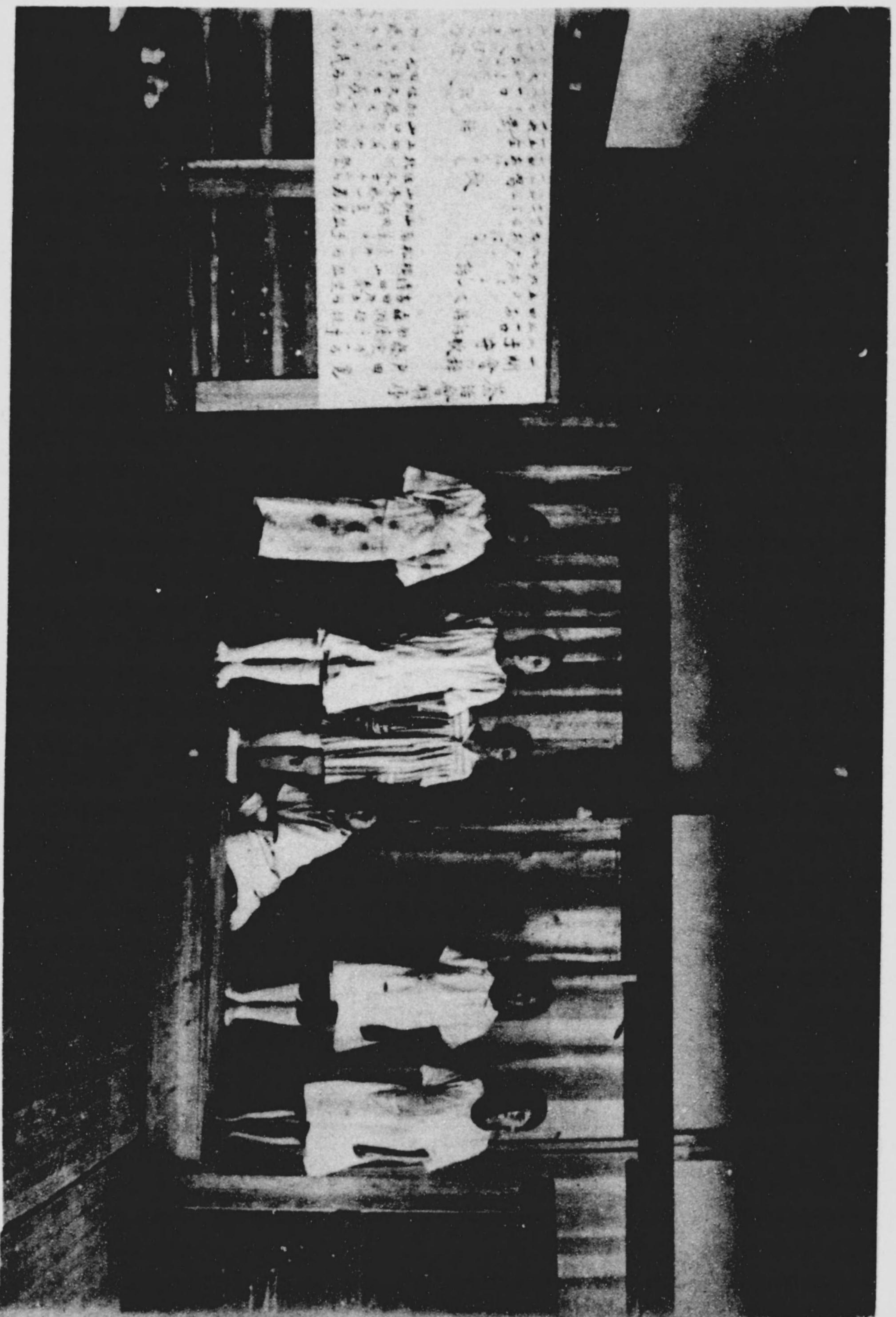
日光ノ葵足達童兒ルケ於ニ間林近附灘ノ良くふ村島雄郡井坂縣井福





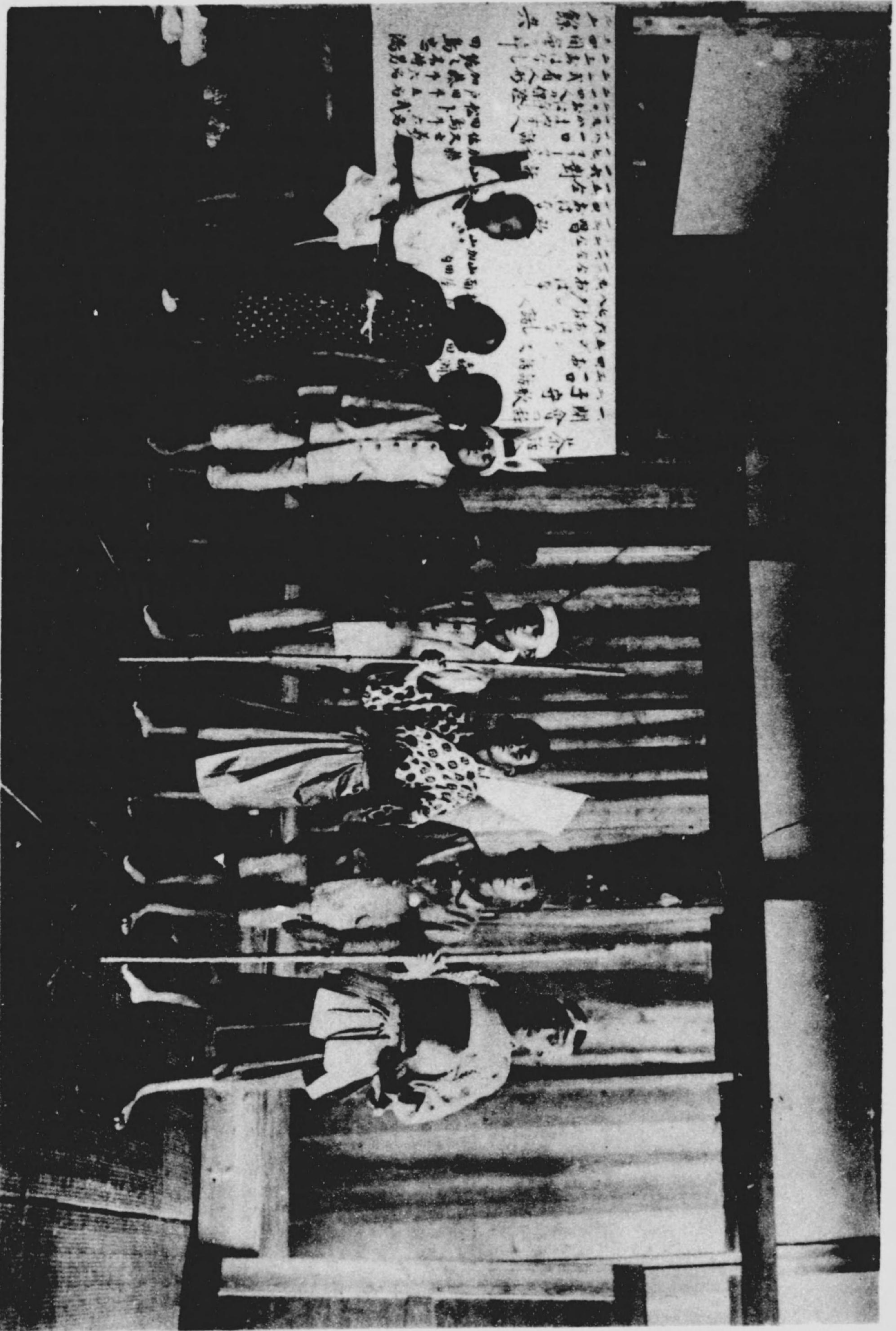
福井縣新保村九頭龍川於本所兒童觀之實況





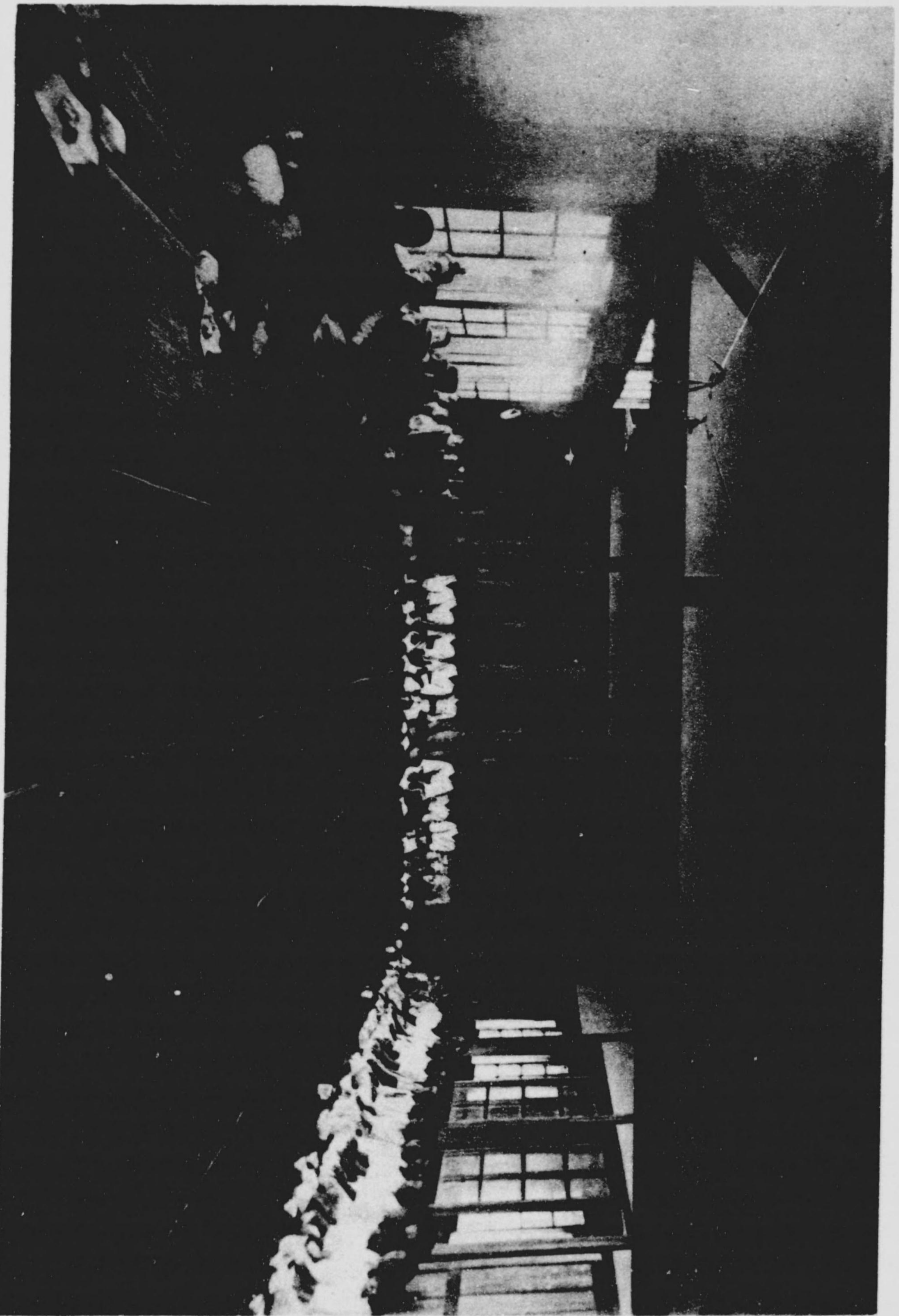
祝賀ノ劇童兒興餘會話茶内(舍宿所本)舍宿密校學中國三町國三都非坂縣非福





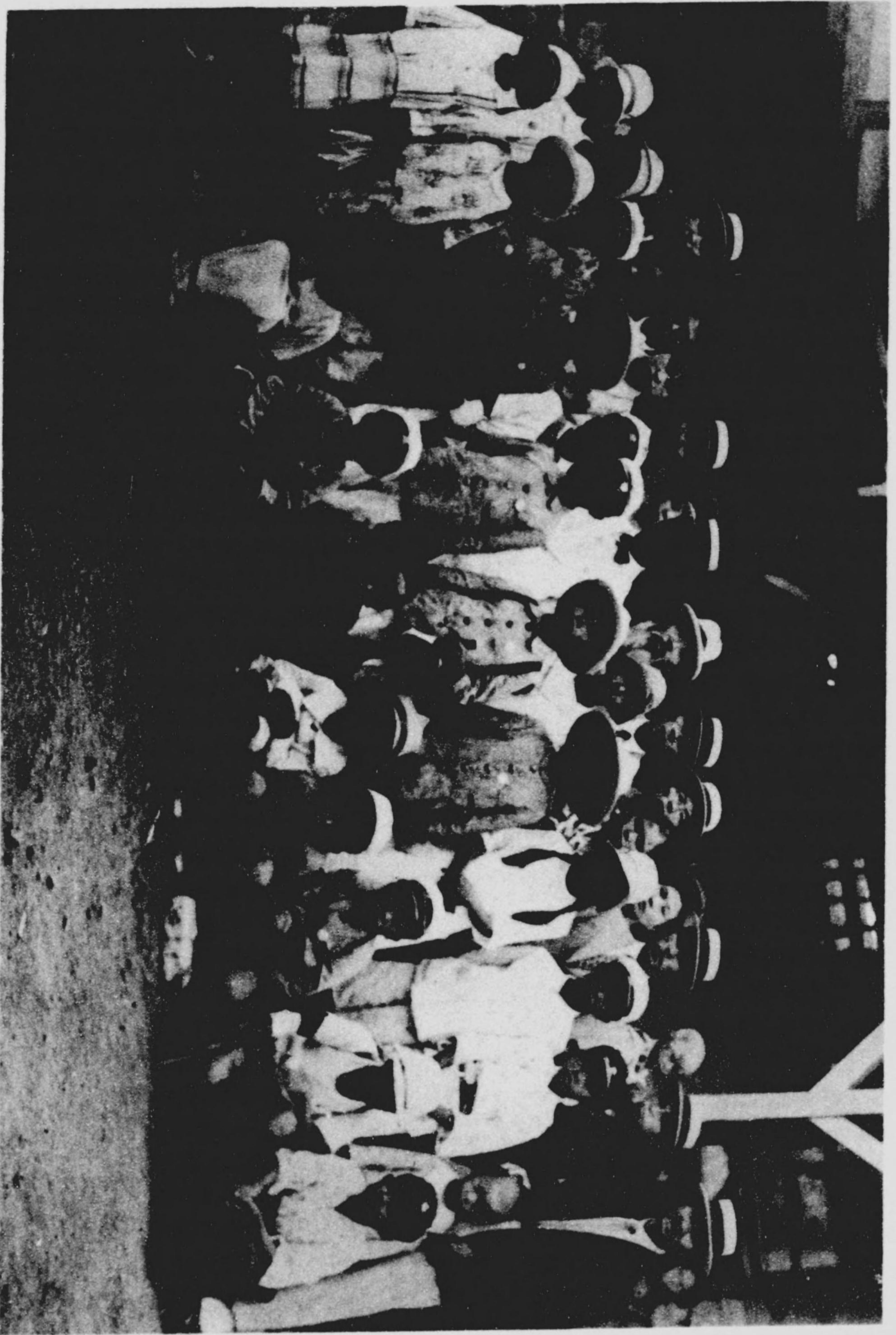
福井縣三町國三中國學校寄宿舍(本所宿舍)內茶話會兒童實況





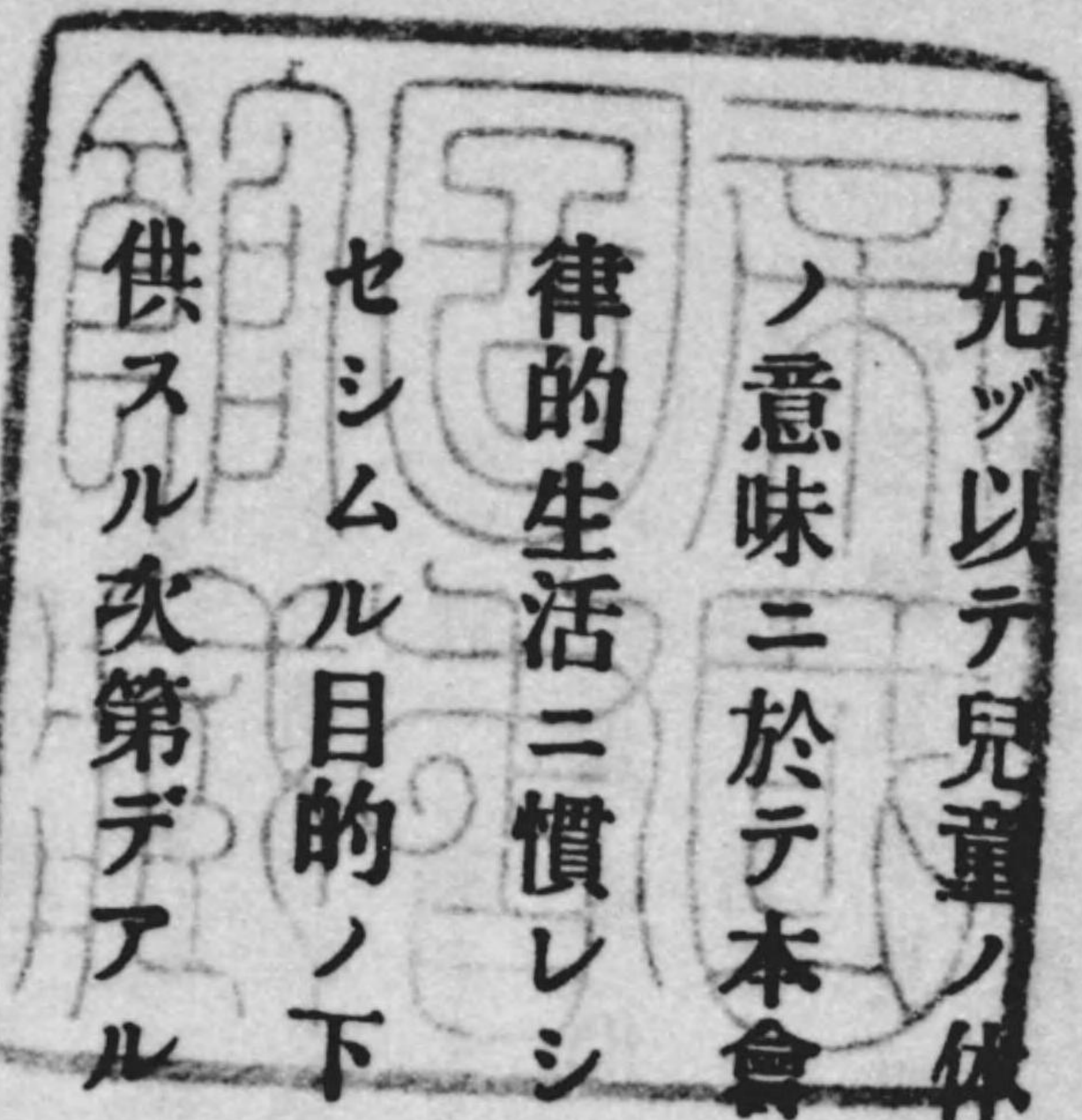
景光會話茶ノ儀式所閉内(舍宿所本)舍宿密校學中國三町團三郡井坂縣井福





人迎出及童兒近附全及市井福ノ前直散解所養保本前驛井福市井福縣井福





結核病ノ蔓延著シクテ本縣ノミナラズ全國ニ亘リ其ノ猛威ヲ逞フシ  
 各府縣共之ガ豫防撲滅ニ腐心シテ居ル之ガ對策ヲ講ズルニ當ツテハ  
 先ツ以テ兒童ノ体力ヲ養成シ健康ノ基礎ヲ確立シナケレバナラヌ此  
 ノ意味ニ於テ本會ハ夏季兒童保養所ヲ開設シテ虛弱兒童ヲ收容シ規  
 律的生活ニ慣レシムルト共ニ身心ノ鍛鍊ヲ爲サシメ以テ結核ヲ豫防  
 セシムル目的ノ下ニ本事業ヲ執行シタ茲ニ其ノ概況ヲ記シテ參考  
 供スル次第デアル

昭和四年十月

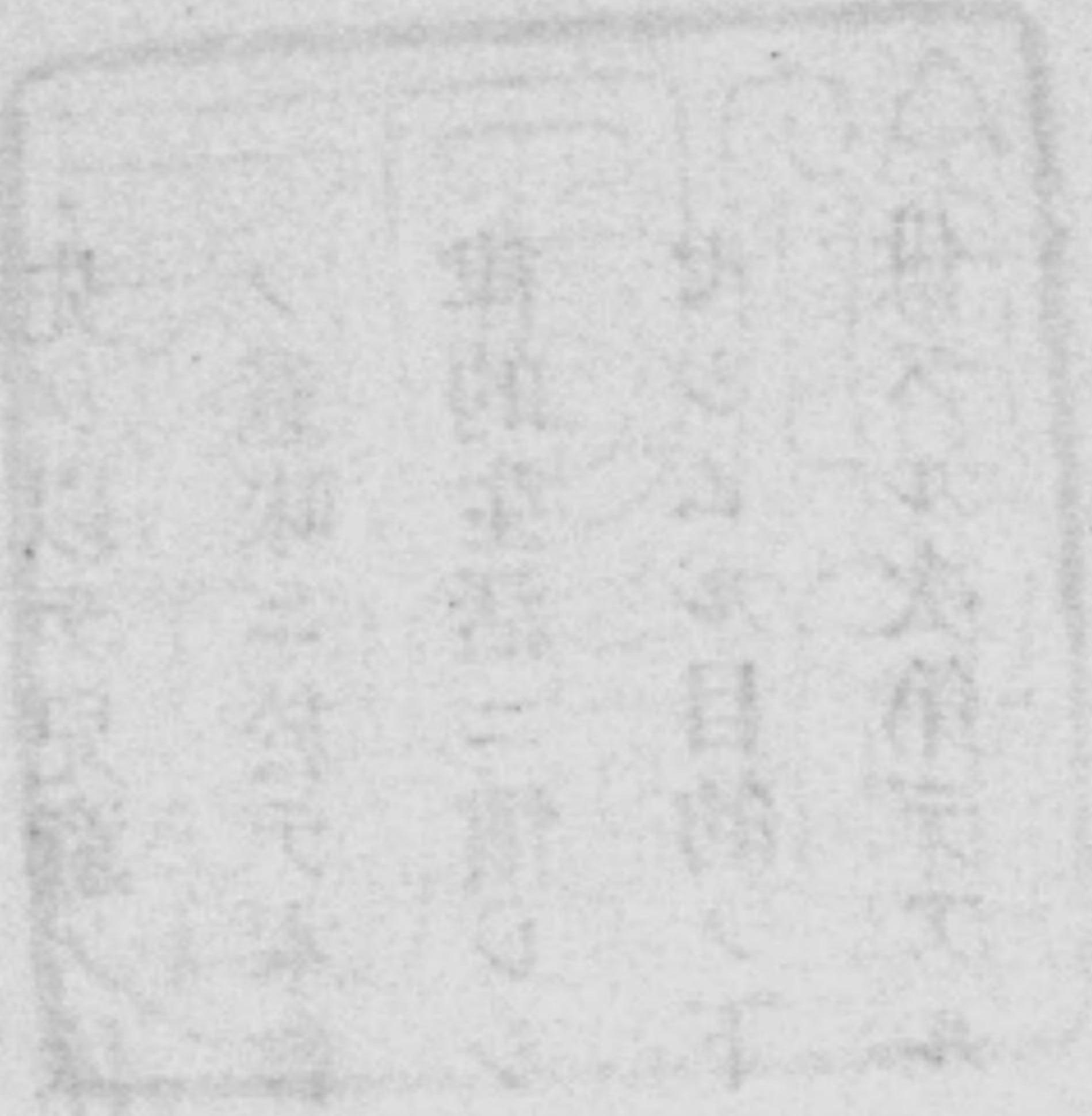


社團 法人 福井縣結核豫防會



# 目次

- 一、夏季兒童保養所規程……………一
- 二、同庶務要項……………八
- 三、三國夏季兒童保養所實施概況……………二
  - イ、位 置……………二
  - ロ、開設期間……………二
  - ハ、設 備……………二
    - 1、宿舍の設備……………二
    - 2、海水浴場及休憩所の設備……………三
  - ニ、職 員……………四
  - ホ、兒童の選定及教養の狀況……………四
  - ヘ、檢診、治療及検査の狀況……………四
  - ト、食事の狀況……………七
  - チ、事業の成績……………六





リ、経 理……………三六

ヌ、其の他……………三九

四、三國夏季兒童保養所日誌……………四〇

五、三國夏季兒童保養所略圖……………四一

社 團  
法 人 福 井 縣 結 核 豫 防 會 夏 季 兒 童 保 養 所 規 程

第 一 章 總 則

- 第一條 本所ハ結核病ノ豫防及撲滅ニ資スル爲身體虛弱ナル兒童ヲ收容シ其ノ體質ヲ改善シ健康ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ハ<sup>社團</sup>法人福井縣結核豫防會夏季兒童保養所ト稱ス
- 第三條 本所ハ小學校ノ夏期休暇ヲ利用シ三週日間海濱適當ノ地ヲ選ビ開設ス
- 第四條 收容兒童ハ尋常小學校兒童中第三學年以上ノ兒童ニシテ傳染性疾患ナク且特別ノ保養ヲ要セザル者ニ限ル

第 二 章 職 員

- 第五條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク
- |       |       |
|-------|-------|
| 所 長   | 一 人   |
| 事 務 員 | 一 人   |
| 救 員   | 若 干 人 |



醫 員 若干人  
看護婦 若干人

第六條 所長ハ本會ノ理事中ヨリ會長之ヲ命ズ

事務員ハ本會書記又ハ事務囑託中ヨリ會長之ヲ命ズ

救員、醫員、及看護婦ハ會長之ヲ囑託ス

第七條 所長ハ會長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

事務員ハ所長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

救員ハ兒童保養ノ職務ヲ擔任ス

醫員ハ兒童ノ保健及所内ノ衛生事務ヲ担任ス

看護婦ハ醫員ノ指揮ヲ承ケ保健、衛生ノ職務ニ從事ス

### 第三章 事業

第八條 本所ハ收容兒童ニ對シ左ノ事項ヲ施行ス

#### 一、身體ノ保養

イ 毎日海濱、又ハ林間ニ於テ新鮮ナル空氣ヲ呼吸シ且日光ニ浴セシム

ロ 毎日時間ヲ定メ運動用具ノ使用、體操、海水浴等ヲ爲サシム

#### 二、精神ノ慰安

イ 樂器、蓄音器ノ使用及遊戲又唱歌ノ合唱

ロ 活動寫真ヲ映寫シ及御伽噺ノ講話ヲ爲ス

#### 三、學科ノ復習

毎日時間ヲ定メ自習及學校ニ於テ課セラレタル宿題ニ付學習セシメ又兒童ノ質問ニ應フ

#### 四、保健衛生

イ 入所ノ翌日、退所ノ前日、及其ノ中間ニ於テ健康診斷、體重検査及一回ノ寄生蟲驅除ヲ行フ

ロ 毎日時間ヲ定メ體温ヲ検査シ健康狀態ヲ考查ス

#### 五、給 養

イ 食物ハ材料ヲ選擇シ身體ノ健康及體力ノ増進ヲ圖ル

ロ 毎日時間ヲ定メ牛乳其ノ他ノ間食ヲ與フ

### 第四章 設備

第九條 本所ニ左ノ諸室ヲ置ク



- 一、事務室
- 二、診察室
- 三、自習室
- 四、居室兼寢室 (男女ヲ區別ス)
- 五、娛樂室
- 六、食堂
- 七、休養室
- 八、浴場 (男女ヲ區別ス)
- 九、炊事場
- 一〇、洗面場

第十條 海水浴場ハ適當ノ區域ヲ劃シテ之ヲ設ケ危險豫防ノ設備ヲ爲ス

第十一條 本所ニハ運動用具及娛樂用具ヲ備フ

第五章 入所及退所

第十二條 入所ヲ承諾シタルトキハ様式第三號ニ依リ保護者ニ之ヲ通知ス

第十三條 前條ノ通知ヲ受ケタル保護者ハ速ニ食費(實費相當額)ヲ納付スベシ但シ本會

ヲ免除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 保護者ハ指定ノ日時場所ニ兒童ヲ出頭セシムベシ

第十五條 保養所ハ最終日ノ翌日午前解散ス

第十六條 兒童ノ携帶品ハ行李又ハ風呂敷包トシ名札ヲ附スヘシ

様式第一號

夏季兒童保養所入所申込書

住所

某、何男、女

何尋常小學校第何學年

何 某  
年 月 日生

住所

兒童トノ續柄

保護者 何

五 某 印

右貴會夏季兒童保養所へ入所致度此段申込候也

年 月 日



第三號様式

社団法人 福井縣結核豫防會 御中  
 注意 一、兒童ニ著シキ辨アルモノハ其ノ情况ヲ詳記スルコト

年 月 日

社団法人 福井縣結核豫防會

保護者 何 某宛

住所

何

某

右者本會夏季兒童保養所ニ入所ノ義承諾候條 月 日午後 時迄ニ本會  
 事務所又ハ 日午後 時迄ニ保養所ニ出頭セシメラレ度此段及通知候也

注意

- 一、規程第十三條ニ依ル食費金 圓 錢ハ來ル 月 日迄ニ福井縣警察  
 部衛生課内本會事務所ニ納入相成度キコト
- 二、入所前ニ於テ頭髮ヲ<sup>散髪(男)</sup>洗滌<sup>(女)</sup>セシメラレ度キコト
- 三、保養所ハ 郡 町

- 内ニ付御承知相成度キコト
- 四、別表携帶物品ヲ準備シ成ルベク不必要品ヲ携帶セシメサルコト
- 五、携帶物品ニハ各個別ニ名札ヲ着ケシムルコト

兒童携帶品表

品目	員數	摘	要
一 單帽	一	男兒ハ學校用制帽、女兒ハ海水浴ノモノ	
二 帶衣	二	内一枚ハ入所ノ際着用ノモノ (二枚ノ内一枚ハ白地一枚紺地ヲ用アルモノ可ナリ)	
三 袴	一	入所ノ際着用	
四 猿股	一	右 同	
五 傘又ハ蝠傘	一	男兒用	
六 下駄	一	女兒ハ日傘用トシテ別ニ蝠傘ヲ携帶スルモノ可ナリ	
七 手拭	一	入所ノ際使用(表付ニアルモノ)	
八 襪	一	外ニ豫備トシテ一枚アレバ可ナリ	
九 衣	一	但シ所持セザルモノハ豫メ其ノ旨申出デラル、コト	
一〇 毛布	一		



二 腹 卷	一	運動用女兒ハ特ニ海水浴用ノモノ一
三 シ ャ ッ	一	
三 草 履	二	
四 半紙チリ紙	若干	
五 復習用教科書、雜記帳、鉛筆等其ノ他齒磨粉同刷子尙女兒ハ理髮具ヲ準備ス	若干	

### 夏季兒童保養所庶務要項

#### 第一章 事務處理

第一條 事務員、教員及看護婦ハ所内ニ宿泊シテ兒童ヲ監護シ及庶務ニ從事スベシ

第二條 事務員ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ整理スベシ

- 一、兒童名簿
- 二、日誌
- 三、現金出納簿
- 四、食料日計簿

#### 五、物品出納簿

第三條 購買品等ハ請求書ヲ徴シ本會ニ送付シ仕拂ノ手續ヲ爲スベシ但シ事務員ハ現金前渡ヲ受ケ小口ノ仕拂ニ備フルコトヲ要ス

第四條 教員ハ學科ノ復習、散步、遊戲、體操、海水浴其ノ他總テ兒童ノ監督及指導ニ從事スベシ

教員ハ日誌ヲ作り學科ノ復習、遊戲、體操、海水浴等ノ狀況其ノ他兒童保養ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スベシ

教員ハ保養所閉所後十日以内ニ收容兒童情況報告書ヲ作り意見ヲ附シ所長ヲ經テ會長ニ之ヲ提出スベシ

第五條 醫員ハ兒童ノ體格検査、所内ノ衛生及醫務ニ從事シ保養所閉所後十日以内ニ兒童ノ健康、體格、榮養、精神狀態ヲ記載シタル書面ニ意見ヲ附シ所長ヲ經テ會長ニ之ヲ提出スベシ

第六條 看護婦ハ醫員ノ命ヲ承ケ體温、體重ヲ検査シ絶エズ兒童ノ健康狀態ニ注意スベシ

第七條 本所ニ小使若干人ヲ置ク

小使ハ所内ノ雜役ニ從事シ殊ニ兒童ノ洗面、入浴、寢具ノ整頓ニ付幫助スベシ



小便ハ交替所内ニ宿泊スベシ

第二章 炊事

第八條 炊事場ニ炊夫一人助手若干人ヲ置ク

炊夫及助手ハ所内ニ宿泊シ炊事ニ従事スベシ

第九條 炊事材料ハ日々ノ献立ニ依リ購入ス

第十條 献立ハ一週間分ヲ取纏メ前週中ニ醫員ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムベシ

雜則

第十一條 兒童ノ爲一定ノ場所ニ湯茶ヲ備フベシ

第十二條 洗面所ニ齒磨ノ爲食鹽ヲ備ヘ浴場ニハ石鹼ヲ備フベシ

三國夏季兒童保養所實施概況

イ、位 置

福井縣坂井郡三國町瀧谷福井縣立三國中學校寄宿舎

ロ、開設期間

昭和四年八月三日正午より同廿四日午前に至る三週間

ハ、設 備

1、宿舎の設備

寄宿舎及同附屬建物は七月卅一日大掃除を爲し八月一日に於て大消毒を實施し左の諸室を配置したり

- 事務室
- 診察室
- 職員室
- 看護婦室兼休養室
- 兒童居室

一 一 二 一 五



食 堂  
 炊 事 場  
 浴 室  
 洗 面 場  
 便 所  
 昇 降 口

— — — — —

事務室は舎監室に之を設け本校より卓子及椅子を借用し執務に便せり  
 診察室は寄宿舎食堂に之を設け本校より卓子、椅子及身体検査に必要な器具を借  
 用し薬品、治療用、消耗品と共に適當に配置し診療及検査に便せり  
 職員室は舎監宿直室及圖書室を之に充てたり  
 児童居室は生徒寄宿室に之を設く一室何れも二十八疊敷にして一側に在る三尺に四  
 間の押入には姓名札を貼付し整頓に便せり  
 食堂は柔道場を整理して是に設け六尺卓子八脚を二列に配列し一側に職員用として  
 一脚を配置し全員一堂に會食したり而して児童卓には姓名札を貼付し記名せる箸袋  
 を配置し食事時の秩序維持に意を用ひたり

入浴場、炊事場及便所は設備完全に付其の儘借用したり  
 洗面場の構造完全なるも洗面器不足に付十五個購入備へ付けたり  
 寄宿舎用の下駄棚のみにては不足に付本校のもの二個を別に借り受け昇降口及之に  
 接続せる廊下に既設のものと共に配置し傘掛、下駄棚各別に姓名札を貼付す  
 食堂前及児童居室階下中央の廊下に三斗入の湯茶甕各一個を備へ之に茶碗を數個宛  
 配置し時々湯茶を供給して隨時児童の飲用に委したり  
 児童の寝具中不足は地方商人より賃借し充分日光消毒の上各室に配置したり  
 2、海水浴場及休憩所の設備

坂井郡雄島村米ヶ脇地籍海水浴場を三郷繁榮會の承諾を得て間口二十間奥行四十間  
 を木材と繩とを以て區別し附近陸上には三國中學校同窓會の天幕を借り受け以て脱  
 衣場を設備し且各児童入水、陸上の區別を明かにする爲表裏、黒、赤に別ちたる姓  
 名札を浴場附近に掲ぐる設備を爲し脱衣場前には標札を掲げたり  
 宿舍と海水浴場との距離を短縮せしむる爲途中瀧谷寺境内にて林間學習を爲さしめ  
 且つ海水浴場に近き雄島小學校宿分教場を借り受け休憩所、晝食所、午睡場に充て  
 たり其の出入口には社團法人福井縣結核豫防會三國夏季兒童保養所休憩所と記載したる



標札を掲げ使用前に於て大掃除及大消毒を實施し他の使用を禁じ兒童の保護に努めたり

ニ、職員

所長	綠川門彌
醫員	綠川門彌
教員	丸山秀彌
同	酒井佐久馬
同	加藤壽
同	田中政一
同	本田伊作
事務員	朝松與三郎
同	飯田隆英
看護婦	黒川すゑ
同	北野フユ

ホ、兒童の選定及救養の状況

兒童募集に關し六月三日各小學校長に依頼狀を發し他面新聞紙上に手續の要項を發表して希望者の便宜を圖り七月廿五日に申込を締切り申込者豫定人員に超過すること僅か四名に過ぎざりしを以て全部採用したり病氣其の他の事故の爲不參せしもの十二名の多きに上れるは遺憾なりき

兒童名簿

住所	學籍及學年	兒童氏名	年齢	保護者氏名
福井市寶永中町	寶永六年	松下武	十一年四月	松下常次郎
同	同二年	松下亘	七年七月	同
同	同四年	松下百合子	九年四月	同
同	同三年	松下直球	八年四月	栗原しゆん
同	同二年	松下英文	七年五月	同
同	同六年	綠川俊徳	十二年三月	綠川門彌
同	同三年	綠川秋子	八年十月	同
同	同六年	佐久士義一	十一年十月	佐久士重隆
同	同三年	魚住敏夫	八年六月	魚住琴三郎



同	江戸下町	同	四年	真田達夫	九年五月	真田一夫
同	寶永中町	同	三年	小林俊子	八年六月	小林英俊
同	老松中町	同	六年	藤田千代子	十一年七月	藤田幾久一
同	佐佳枝中町	同	六年	山口道子	十一年六月	和久本金三郎
同	佐久良下町	同	順化六年	加藤廣國	十一年八月	加藤廣
同	佐佳枝下町	同	三年	清田泰堅	九年七月	清田榮治
同	日之出下町	同	三年	片山敏之	八年五月	片山清
同	佐佳枝中町	同	三年	上田賢次郎	九年	上田捨吉
同	松ヶ枝上町	同	三年	池田清人	九年十一月	池田仁兵衛
同	湊中町	同	第一、四年	北川登	九年九月	北川藤作
同	大和中町	同	第二、六年	有村誠七	十二年七月	有村嘉七
同	常盤木町	同	三年	有村秀雄	八年七月	同
同	足羽郡社村小山谷	同	足羽六年	鈴木安之	十一年九月	鈴木安治郎
同	福井市九十九町	同	同	山田彌	同	山田喜市
				高岡豊	十一年四月	天谷いし

同	足羽下町	同	同	板倉一子	十一年六月	板倉末吉
同	毛矢町	同	同	高津清子	十一年八月	高津與三右衛門
同	佐佳枝下町	同	同	高津綱	九年四月	同
同	坂井郡丸岡町谷	同	花月五年	横山弘	十年五月	兒玉善三郎
同	霞	同	平章六年	戸田寛	十二年二月	戸田くに
同	兵庫村下兵庫	同	同	吉田とし子	十二年三月	高倉たに
同	金津町八日	同	同	角田すみ子	十一年四月	角田政市
同	本莊村上番	同	同	森瀬哲男	九年四月	森瀬よしを
同	同	同	同	加納憲男	九年二月	加納貢
同	同	同	同	佐々木時男	十二年二月	佐々木武
同	同	同	同	佐々木忠良	十二年	佐々木近江
同	大野郡上庄村東山	同	上庄五年	齋藤國榮	十一年五月	齋藤長
同	同	同	同	齋藤國三郎	八年八月	同
同	同	同	同	松田幸雄	八年十月	松田泰藏
同	同	同	同	有終女三年	九年	龜田八十八
				有終男三年		
				大野町五番		
				七間		







尋常六年	三	七	二〇
合計	三五	二七	五二

教養は左の日課に依る

起 床  
 体温検査、洗面、整容、居室整頓  
 朝拜、朝間運動  
 朝食  
 宿舍出發  
 林間學習  
 間食及休養  
 學習場出發  
 海水浴  
 晝食  
 午睡  
 五時三十分  
 五時卅分より六時廿分まで  
 六時廿分より七時まで  
 七時卅分  
 八時  
 八時卅分より九時卅分まで  
 九時卅分より十時まで  
 十時  
 十時廿分より十一時卅分まで  
 正午  
 零時卅分より二時まで

行事日程

体温検査  
 海水浴  
 間食及休養  
 休憩所出發  
 温浴及休養  
 夕食  
 遊戯、散歩、娛樂  
 就寢

二時より二時卅分まで  
 二時卅分より三時五十分まで  
 三時五十分より四時廿分まで  
 四時廿分  
 四時四十分より五時卅分まで  
 五時卅分  
 六時より八時まで  
 八時三十分

日	午前	午後	夜間
三	身体検査	入所式懇談會	町内 散歩
四	海水浴	海濱、遊戯、海水摩擦	
五	同	海水浴	
六	同	同	



七	同	寄生虫驅除	お伽噺
八	同	海水浴	
九	同	敦賀丸便乗船出	金比羅祭參拜、新保橋夕涼
一〇	同	同	活動寫眞
一一	同	海水浴	
一二	同	船遊び、蛭狩り	
一三	身体検査	海水浴	蓄音器
一四	林間遠足東尋坊	同	寶釣り
一五	海水浴	同	蓄音器
一六	學藝會	同	お伽噺
一七	海水浴	同	
一八	同	同	
一九	同	音樂會	
二〇	同	海水浴	活動寫眞
二一	遠足濱地方面砂遊び	同	蓄音器
二二	身体検査寄生虫驅除	閉所式、茶話會、文藝會	
二三	海水浴		
二四	解散		

兒童の居室は二十八疊敷なるに付優に十四名を收容し得るも希望者少なりしを以て出身學校、性別を參酌して一室に七名乃至十二名を配置したり而して各室には室長副室長を選任せしめ各室に一名宛配屬する担任教員の監督及指導の下に日用品の購入請求、蚊帳、蒲團、毛布、枕の整理整頓を始め掃除に至るまで長幼其の分に應じ之に従事せしめ以て自治精神の養成に意を用ひたり

學科の復習は大氣を清澄にして吾人の生活に必須缺くべからざる酸素を多く供給する林間殊に呼吸器病に特異の良好の作用を呈する針葉樹林間に於て之を爲さしむべく兒童用寫生板五十二枚を新調して各兒童に貸與し而して宿舍より海水浴場に至る沿道の稍中間にして恰好の場所たる三國町瀧谷區瀧谷寺境内杉並木の蔭に於て之を爲さしめたり擔任教員は其の間を巡視して之が指導教養に努め可及的保養生活の實績を擧ぐることに意を用ひたり  
海水浴は水温を検査したる後、兒童を海邊に整列せしめ少時間豫備体操を行ひ入水に際しては豫め顔面を濡し手足の關節を折らしめ故障の豫防に努め入水時間は十分乃至十五分を限度とし午前、午後海水浴時間中二回若くは三回入水せしめ水、陸共に教員及職員之が指



導監督を爲したり晝食後午睡を奨励し午前の疲勞を慰せしめむことを圖れり  
 午後六時後就寢時迄の間一時半は運動、散步、遊戯、樂器の使用等を爲さしむること、せ  
 り午後八時三十分の就寢時は暑氣尙ほ強く寢苦しきを常とせるを以て室内及廊下の窓牖は  
 全部開放し通風を計り全兒童睡眼後冷氣の室内に滿つる午後十時を過ぎ職員各室を巡視し  
 窓牖を閉ずると共に兒童の寢姿を直し毛布其の他の寢具を纏はしめ夜尿を爲すものは便所  
 に連行し更に深更午前二、二時頃再び巡視して前同様の措置を爲し以て不斷に兒童の健康  
 保全に意を用ひたり

本年は開所後二週間餘も晴天打續き各兒童とも充分に海水に浸り又は屋外に活動すること  
 を得たる爲尤も職員を苦しましむるホームシックに罹りし者一名も生せず二、三の齒痛、  
 結膜炎、患者を出だしたるも何れも輕快又は快癒し中途退所者を見ざりしき  
 へ、檢診治療及検査の狀況

身体検査は八月四日同月十三日及廿二日の三回之を行ふ全兒童の体重を入所時に於ける  
 ものと退所時に於けるものと比較するときは平均「〇、九五キロ」を増したり八月五日  
 六日の兩日に亘り全兒童の採便検査を爲し發見したる寄生虫卵保有者に對し同月七日第  
 一回の驅除を爲し更に同月十九日、廿日の兩日に亘り驅虫劑服用者全部に對し第二回採

便検査を爲し驅虫不能なりし者全部に對し同廿二日第二回の驅虫劑を服用せしめたり  
 八月十五日全兒童に對しツベルクリンの注射を爲しビルケー氏反應試験を爲したり  
 八月十九日同月二十日の二日に亘り全兒童の尿検査を實施したるが少量の糖あるを發見  
 したるもの一名ありたる外成績良好なりき開所中は醫員一名在所し夫々治病の手當を爲  
 したり其の病名及患者數等左表の如し

兒童患者數

病名	患者數		計數	治療日數	治癒	未治退所
	男	女				
トラホーム	一	一	二	四	一	一
結膜炎	七	一	八	六	八	二
眼瞼炎	一	一	二	四	二	一
濕疹	一	一	二	五	一	一
齒痛	四	二	六	三	六	一
腹痛	一	一	二	三	一	一
咽頭加答兒	一	一	二	三	二	一
氣管支加答兒	一	一	二	五	三	一







の参考室に陳列しある標準食料を参考として取捨し選定したり間食午前は牛乳五勺に定  
め午後は饅頭、キャラメル、衛生「ボーロ」ビスケット其の他の菓子又は水蜜桃、バナ、  
西瓜等の果物を給與せり

標準食料

第一例

- 牛乳 一合
  - 味噌 五勺
  - 野菜
    - 一、葱、胡蘿蔔、蓮根、獨活、大根、筍の類 二十勺
    - 二、瓜哇薯、甘藷、青芋、慈姑、蒟薯、佛平薯の類 二十勺
    - 三、胡瓜又は白瓜 十五勺
  - 牛肉、鶏肉、羊肉又は豚肉の類 六十勺
  - 白米 四合
- 以上にて蛋白質二十六勺五分、脂肪七勺五分、含水炭素二十一勺を得

第二例

- 鶏卵 二個
  - 味噌 五勺
  - 野菜
    - 一、ホーレン草、芹、ミツ葉、鶯菜、小松菜の類 二十勺
    - 二、獨活、胡蘿蔔、大根、蕪菁、蓮根、筍の類 十勺
    - 三、百合、慈姑、蒟薯の類 二十勺
  - 魚肉
    - 一、鯛、鱒、鮎、鯖の類 三十勺
    - 二、鱈、鱈、ムツ、鯖、鮓、泥鰌の類 三十五勺
  - 白米 四合
- 以上にて蛋白質二十七勺、脂肪五勺、含水炭素百十九勺を得

第三例

- 豆腐 二十五勺
- 大豆、鵲豆の類 十五勺
- 湯波又は燒酎 三勺
- 魚肉
  - 比目魚、鶏魚、鮭、アイナメ、鰈、イサキ、鱈、鮓、  
ハゼの類 二十五勺











日三十	日二十	日一十	日十
汁飯 煮物 馬鈴薯、すき芋、味噌 福神漬、梅干 麥飯	汁飯 煮物 菜、油揚、味噌 澤庵 麥飯	汁飯 煮物 キヤベツ、麸、味噌 大根 麥飯	汁飯 煮物 馬鈴薯、味噌、茄子 茄子 麥飯
焼肴 鱈焼 焼豆腐、松魚煮 茄子 麥飯	造り肴 鱈、茄子 かじき、わさび 澤庵 麥飯	焼肴 鱈焼、ゴリ佃煮 梅干 胡麻入握飯	焼肴 鱈、お多福豆 おんもごき 澤庵 麥飯
皿煮物 親子ごじ がんとごき 澤庵 麥飯	茶碗 卵焼、椎茸、鰻鮓 南瓜、馬鈴薯 白瓜 麥飯	茶碗 卵ごじ 白瓜、あんかけ 福神漬 麥飯	焼肴 鱈焼 油揚 茄子 麥飯
同	同	同	同
同	菓子菓	同	ルメラヤキ

日九	日八	日七	日六
汁飯 煮物 豆腐、味噌 大根 麥飯	汁飯 煮物 焼鉄、味噌 白瓜 麥飯	汁飯 煮物 白瓜、馬鈴薯、味噌 大根 麥飯	汁飯 煮物 玉葱、味噌 胡瓜 麥飯
焼肴 小鯛煎餅 昆布巻 茄子、南瓜 大根 麥飯	焼肴 中鯛鹽焼 茄子、南瓜 大根 麥飯	煮物 結茸、松魚煮 鱈焼 胡瓜 麥飯	煮物 鱈、牛蒡 烏賊、胡瓜 胡瓜 麥飯
茶碗 生鯛あんかけ 油揚、すき芋 澤庵 麥飯	焼肴 鱈焼 鱈、馬鈴薯 胡瓜 麥飯	茶碗 ふかし卵 白瓜、あんかけ 胡瓜、茄子 麥飯	焼肴 鱈焼 昆布巻 澤庵 麥飯
同	同	同	同
頭 飯	同	菓子菓	ルメラヤキ







チ、事業の成績

兒童の多くは入所時に於て活氣に乏しく一見薄弱さを思はせたるも退所時には血色良く快活にして筋肉の緊張を認め精神方面も亦相互扶助、共同生活、自治精神、其の他に付訓練する處あれば無形の精神的方面及有形の良習等開却すべからざる効果ありしなるべし

リ、經理

本所に於ける經費は左表の如くにして其内譯左の如し

一金貳千參百參拾圓拾六錢也

經費總額

内 譯

金六百五拾五圓貳拾錢也  
金壹千六百七拾四圓九拾六錢也

兒童納入食費  
本會出資額

支出經費科目表

科 目	金 額	科 目	金 額
報酬及手當	二七八二八〇	間食費	一〇四一六〇
旅費	三七八八一〇	諸備給及雜給	一六四二〇〇
患者費	五一二二〇	備品費	一四八一六五
設備及復舊費	四九〇六〇	消耗品費	二二九五七〇
借家及借地料	一〇一〇〇〇	印刷費	五六八〇〇
雜費	八〇二四〇	通信運搬費	二二一二五〇
賄費	六六八〇四〇	計	二、三三一五七〇

ヌ、其他

開所後旬日餘に亘り打續く快晴にて全兒童は熾烈なる日光の下に原始の儘の裸体にて濃藍色の海波に戯るゝこと連日に及ぶや活動性に富み海を戀ひたる兒童も快き午後海水浴をも樂しまさるに至れり

變化に乏しく單調なる保養所生活も之に馴れ共同生活の趣味を感得するに及ぶや解散期の近けるに驚く者殊に解散の前夜の如きは相倚り相抱いて別離を悲みに袖を濡らしたる者



砂からざりき本會最初の試みに不拘罹病者僅少然かも何れも輕症にして一時的の者に過ぎざりしは幸なるが罹病者中罹病の原因を仔細に調査せしに腹痛とあるは腸胃加答兒に因るものにして是等は何れも其の兒童の家族等常所に訪問の際種々の飲食物を與へたるが大なる誘因と認め得べきは嚴に警戒すべき事象なり

全兒童を「ホームシツク」に罹らしめざらんとして御嘶、活動寫眞の映寫、唱歌、散歩遊戯、學藝會、音樂會、實探し、社寺參拜、遠足、蛭狩、浚渫船見學等の催を爲したる外別に保養所時報を配付し更に福井市出身の兒童の父兄に依頼狀を發送して各戸の秘藏の兒童の好むレコード數十枚を拜借し時々蓄音機を使用して兒童の心理轉換に努めたり

◎ なかむとて花にもいたく馴れぬれば  
ちるわかれこそかなしかりけれ

時 報

▲八月六日

◎寄生蟲の検査及驅除

七日には寄生蟲の驅除を行います。寄生蟲といふのは我々のからだの腸の中にあつて、からだの養分をどつて生きてゐる虫、蛔虫、鞭虫、十二脂腸虫等があります。この虫がわくと自然顔色はわるくなり氣分がすぐれず、からだが弱くなります。この虫がわくとそれでこの虫は卵の時代から、のぞかねばなりません。

皆さんの中にもかういふ虫の卵をもつてゐる者がなにもかぎりませぬ。それで糞便検査をして卵をもつてゐる方には御藥をあげて、その卵をのぞいてもふのであります。

◎瀧谷寺

皆さんが毎朝學習に行くところは瀧谷寺といひます。

瀧谷寺は眞言宗の寺で福井縣でも指折の名高い寺であります。境内の杉の並木の涼しい蔭で學習する氣分は何んど云ひあらはすことが出来ませぬ

◎浚渫船敦賀丸便乗

八日の午後は浚渫船（九頭龍川口は上流から砂を流して来て年々淺くなりますから掘上げてゐます、この掘る船をシュンセツセンといひます）敦賀丸に乗つて東尋坊沖にゆくので

浚渫船は、たくみに泥や砂をほりあげます、その泥や砂を沖に流しに行くのです。皆さん







どうく名奉行の巧みな裁きにかゝつて白状いたしました。

◎懸賞考へ物

- 一、皆さんが遊ぶ時に使ふもので、どちらから見ても同じ形をしてゐるものは何んですか
- 二、耳も眼も鼻もなくして口ばかりあるものはなんでせう。
- 三、十四十三ヒデ四四これは昔の日本の偉い人の名ですが何んど讀むのでせう。

▲八月八日

◎蛭狩り

十一日は楽しい蛭狩りです。

船につて九頭龍川口へ行きます。蛭には澤山の種類があつて、「しれなしじみ」「ましじみ」「やまとしじみ」「せたしじみ」「あはちしじみ」「おほしじみ」「まるこふしじみ」等があります。

皆さんがとりに行く蛭は「ましじみ」といつて三角形に近き形の二枚貝で北海道を除き全國到る所の河川特に砂多き場所を好んですんでゐます。

十一日にはだれが澤山取るでせうかね？

◎日本全国の學校數

(大正十五年三月)

小學校	二五四五九	大學	
中學校	五〇二	官公立	一五
高等女學校	八〇五	私立	一九
高等學校	二九		
専門學校	八五		

◎陸海軍大將數

(昭和四年六月一日)

陸軍大將現役としては奥、載仁親王、上原、守正王、鈴木(莊六)、奈良、白川、宇垣、武藤井上、鈴木(孝雄)、金谷、田中(國重)の十三名(就任順)で豫備十名後備九名計三十二名であります。

海軍大將は現役としては、博恭王、東郷、財部、竹下、岡田、加藤、安保、谷口の八名で豫備後備十七名計二十五名であります。陸海軍合計五十七名となります。

▲八月十二日

◎三國神社について

昔から山王様と申して居りまして、名高い山王祭といふのはこの宮のお祭であります。御らんのどほり、立派な境内をもつて居ります。祭神は大山咋命(神代の神様)と繼體天



皇とでありまして、繼體天皇は永らく三國においでになりました、三國の港をつくられたので、永く御恩を忘れないために、こゝに御祀りしたのであります。縣社でありまして、御祭は五月二十日、各區から大きな武者人形の山車が出るので有名です。

◎懸賞考物

「次郎さん何かおもしろい考物をして遊びませう」では花子さんおもしろい考物を出して下さい」「はい、出しますよ、始めにごふくやさん。その次にぶりきやさん。その次にお米やさんがあります」「おや、町のやうですね」「それからね、お米やさんの、お隣には卵やさんが来ることもあります。時にはお豆やさんが来てゐることもあります」「するとお米やさんのお隣は時々かはるのですか」「え、たいていかはります。おさかなやさんが来てゐる時もあります」「あゝ、おもしろいな」「面白いでせう分りましたか」「まつて下さい。考物だからよく考へねばなりません」「あゝよく考へて下さい」次郎さんは色々ふうしましたがどうも分りませんでした。さてそれは何でせうか。

▲八月十四日

◎からだを丈夫に

縁の下に生えた草はひよろ／＼と細長く、少しの風や暑さにも負けてたふれてしまひます。これと反對に、いつも人にふみつけられる道芝はふみつけられれば、ふみつけられる程、ますます丈夫にそだつて行きます。

人の体もこれと同じで、たゞ大事にばかりしておくとも弱くなり、きたへるとだん／＼強くなります。

曾さんはこの保養所へ来てから、毎日規則正しい運動をしてゐるので、体がめき／＼よくなりました。昨日の身体検査の結果によりますと、体重の増えてゐない者が僅か二名、其の他の人は全部〇、五疋から一、五疋も増えてゐるので、先生達も大變喜んでゐるので、夏は一体に胃腸が弱つてゐるので、体重の減るのが普通になつてゐますが、それが反對に僅か十日間に、この様に増えてゐるのです。これを見ても、どんなにこの保養所の生活がよいか分りませう。暑い時遠い路を歩いて海へ行くことは、時には苦しくていやになることありませう。又おいしいお菓子のほしくなる時もありませう。けれどもそこが辛棒のし所です。これ位の辛棒が出来ない人は決して偉い人になれません。これから楽しい遠足、おもしろいお断會、活動寫眞、實つり、學藝會と次から次へと皆さんを喜ばせることが澤山にあります。もう後十日間元氣よく、ゆくわいに送りませう。そうして立派な体



になつてお父さんやお母さんを喜ばせませう。昔から偉くなつた人は大てい身体の丈夫な人でした。どうぞ皆さんも体を丈夫にして立派な人になつて下さい。

### ▲八月十五日

今晚は港橋　へしやうりやう舟を流すのを見に行きます。今日はこの舟について少し書いて見ませう。十五日は「ボン」といひまして正しくは「ウラボン」といひます。「ウラボン」と云ふのは印度の古代語で、意味はさかしまにつるされた苦しみをとくといふことです。それで父母其他死んだ人の苦をすくふために、佛にいろ／＼の食物を供へておまつりするのであります。この日はどんな地獄の罪人もゆるされて樂な日を迎へることが出来るのです。こゝにいふ日ですから人々は皆仕事を休んで樂しく遊び盆踊等をやります。三國の濱にも十五、十六の夜大きな踊がたちまして、たいへんにぎやかです。しやうりやう舟といふのはお迎した先祖の靈をのせて御送する舟であります。

#### ◎一口ばなし

(一)　ねこと象と牛

ねこと、象と牛が、或日活動寫眞を見にでかけた、なか／＼はじまらないので、ねこが「ニヤカ／＼はじまらないね」と言ひますと象が「ゾウしたんだらう」と言ひました。する

と牛もまけずに「モウはじまるだらう」と言ひました。

(二)　かさ

とつぜん雨がふつてきましたので花子さんが「すみませんが、かさをかして下さい」と言ひますと、春子さんは「新しいカサですから、ぬらしてはいやよ」といひました。

#### ◎波（童話）

にげる我らの　あと追ひかけて　大波小波が　ついてくる。

大波小波が　引くあとつけて　我等はまたも　追つて行く。

波は我等の　あそびの仲間　いつもはまへは　おもしろい。

### ▲八月十八日

今日はおもしろい笑話を書いて見ませう。

#### ◎ゆで卵

田吾作爺が町へで、來ました。おひるになつたので、川岸の見はらしのよい茶屋でおべんどうをたべるところにしました。その時女中が「ゆで卵を持って來ました。」

田吾作爺は、かわもどらないで、メリ／＼たべてゐます。女中は

女「お客様、どうぞか。は。を。ひ。い。て。お。あ。が。り。下。さ。い。」と言ひますと田吾作爺「さうかなる



ほど、こゝは大へんよい」と言つて二つ目の時には川の方をむいて食べました。

◎船の上と たゞみの上

或商人がはじめて船にのつた時、海があれたので大層よわつてゐました。そこへ一人の水夫が、おもしろさうに歌をうたひながら來ました。商人は水夫に向つて「こんなに海があるのに君等は、よく平氣で居られるね」と言ふと水夫は「平氣ですとも、船は私共の家ですもの、船でくらすほどおもしろい事はありません爺も父も皆船の上で死んだのです」と言ひました。「そんなに代々船の上で死んでも船がこはくはないのかね」と商人がふしぎがると水夫は「あなたのお父さんはどこでなくなりましたか」と問ひました。「父も爺もたゞみの上で死にました。」と答へると水夫は「それではあなたもたゞみの上がこはいでせう」と言つて笑ひました。

◎氷水のにたて

父「坊や、お前のやうにつめたい氷水ばかりのむと今におなかをわるくして死んでしまふよ。」子「それではにたてゝのみませう。」

▲八月十九日

今日もあいにく、雨が降つて海水浴ができませんので、皆さんのおなぐさみにと思つて、

面白い遊をお知らせすることにしました。それは相手の年と生れた月とをあてるのであります。

あてる人は先づ相手方の生れた月を二倍して五を加へてもらひます。それを五十倍したものに、相手の年を加へてそれから二百五十を引いてもらひます。そして、でゝ來た答の頭の數字が生れた月で、あとの數字が年齢になるのです。

例へば、こゝに五月生れで三十五才の人があるとしめます。いまこの人の生れた月も、年齢も少しも知らないが相手方に、右に書いた方法で計算して貰ひますと丁度五三五と言ふ數字が出て來ます。それでこの人は五月生れの三十五才と言ふことになるのです。今これを算式で示すと(生月×2+5)×50+年齢-250=生月・年齢となりませう。皆さん一度やつてごらんませう。

◎懸賞 判じ繪 (これは何と讀まれますか。べ切今日の午後八時)





▲八月二十一日

◎くろ雲 (童謡)

お池のかへる 何みてなくの お山の上の くろく雲の

ふくれる雲を こはくてなくの さうではないの あの雲くれば

せなかどぬれて やけつくすなも つめたくなるの

そのつめたさを ほしくてなくの 来いくくもよ あのくろ雲よ

雨もつてわたれ 風もつてわたれ。

◎おもしろしんぶん

▼世界で一ばん大きい人は、フィラランド人のアイアヌスと言ふ男で身長九尺三寸四分も  
あります。

▼畳の長さには三通りあります。間(京都附近)は六尺三寸、名古屋間は六尺、江戸間は五  
尺八寸。幅はみなその半分です。

▼果物の中で一番こなれのよいのがリンゴで一時間半、一番悪いのが枇杷で二時間半かゝ  
ります。

▼近頃日本人の脊が年々少しづつ伸びて来ました。今から二十年前にくらべると、二〇才

の男が平均して六分、女が一寸ほど伸びました。

◎懸賞考物

一、坂の土がなくなつて木が生えました。何になりますか。

二、次郎さんは頭の左がはにあるものをたべてゐます。何でせうか。

(注意) 正解の先着者五名に賞品をあげます。

▲八月二十三日

二十一日間も夢の間で、明日はいよ／＼なつかしいお父さんやお母さんのおそばへ、かへ  
ることになりました。どんなにお父さんお母さんはお待ちかねのことです。そして皆さ  
んの丈夫さうなお顔を御覧になり、からだの目方等の前よりもふえたのを、お聞きになつ  
て、どんなに喜ばれることだらうと思ひます。皆さん、私達は皆さんがよくいふことをさ  
いて、この三週間一生懸命に勉強し、よくからだに氣をつけて、遠い路もいそひなく毎日  
海においでになり、誰一人きまゝのため中途でお家へ歸つた人もなく、明日皆をろつて元  
氣よく、おかへりになることを喜びますと同時に、何だか別れおしいなつかしいかんじが  
いたします。どうか皆さん！この保養所にゐた楽しい三週間のことをお忘れなく、時々お  
便り下さることを待つて居ます。



職員名列

姓名	住所	姓名	住所
緑川門彌	福井縣廳	加藤壽	三國 <small>三國</small> 小學校
朝松與三郎	同	本田伊作	三國北 <small>三國</small> 小學校
飯田隆英	同	田中政一	雄島 <small>雄島</small> 小學校
丸山秀彌	三國中學校	黒川すゑ	坂井郡大石村石塚
酒井佐久馬	同	北野フユ	丹生郡城崎村高佐

三國夏季兒童保養所日誌

保養所開設準備の爲七月卅一日午前六時發で本會より飯田事務員三國に先發した豫め鐵道便にて送附して呈いた荷物は三國中學校寄宿舎に運ばれて在つた又人夫も五人待ち受けて居た、寄宿舎に着いた飯田事務員は人夫を督勵して各室の大掃除を始めて居る處へ衛生技

師鈴木事務囑託が現場に来て大消毒の準備を爲し大掃除の終へた室より人夫を替して順次大消毒を始めた八月一日も午前七時より人夫六人を備ひ前日の仕事の未済分を續行しつゝ、傍ら商人より借り受けた寢具及蚊帳等の日光消毒を完全に施行したとして又新しい枕の袋には紐殻を詰めて各室に分配せしめた、八月二日は前日の仕事の未済分を續行し加藤、酒井、本田、田中の各教員出勤して各室の人員割、各室の番號札、配當人員札、傘棚、下足棚の名札の調製貼付は勿論、押入棚の名札も貼り更に各室の人員數に應じて必要な寢具、蚊帳、掃除具、團扇等の配分から本校門前より宿舍までの道案内札を作成して貼付し兒童の入所に差間ない一切の準備を終つたのは午後の六時であつた。又海水浴場、脱衣場及休憩所の設備も人夫二人を備ひ大体に準備せしめ三日午前中に休憩所の消毒及前日未済の分を完成した。

八月三日 土曜日 晴

憧憬の海、海の保養所へと集ふ兒らを乗せた汽車は十一時二分三國驛に立ち入つた旅客の中より豫防會のマークを附けた兒らは嬉しげに改札口を流れ出た、之には緑川所長、朝松松井兩事務員及看護婦も附添れてゐた、驛頭には本田、加藤兩教員、飯田事務員等兒らの荷物を運搬すべく荷車を準備して待ち受けてゐる驛頭にて勢揃への上保養所へと歩を向け



た真晝の陽はかん／＼と照りつけて汗は頬をつたつた、宿舍に充てられた三國中學校の寄宿舎の入口には酒井、田中の兩教師が兒童の下足場、雨具掛場等一々指定しそして五つの各部屋に割り當てられた兒童を一々案内して携帶品の置場も指圖してしばし汗を拭つて憩ふことゝした。

しばらくして間食として牛乳をいたゞき直ちに講堂に參集して入所式を行つた緑川所長の懇なる開所の辭あり續いて教職員を紹介加藤教員の保養所に於ける保養方針の説明があつて式を閉ぢたその時はすでに零時半であつたそれより食堂に導かれて晝食の卓を圍んだ無論附添の保護者も席をつらねた。食後は舍内生活について色々の注意を與へた、二時半より懇談會を始めたその際緑川所長より入浴上の注意があつたそのお話の中にはお尻の洗ひ方の珍な御説明があつた先づ入浴の前左手にシャボンをつけ右手にて湯を掬み出し腹のところに湯を流しながら左の手でお尻のところを……と云ふか云わぬに抱腹絶倒、兒童は簞々として傾聴した愉快の中に會を終へ一同入湯一日の汗を流し夕食にとりかゝつた其時所長より良く噛んで喰ふ事と何んでも喰ふやうにどの注意があつた。食後は町内散歩とし港橋愛宕神社等附近をゆるく散歩して定めぬ八時に歸舎、職員總掛にて床のべ方、蚊帳のはり方等指導し保養所の第一夜としての夢路を辿ることゝなつた。

八月四日

日曜日

五時半起床の定であるのに五時には早くも全員床を抜き出てしまつた体温検査の後洗面整容居室掃除等一々指導し六時校庭に集合した、朝の冷氣は廣い校庭に溢れてゐる兒童は整列して東の方を遙拜し、次に朝間体操及單簡なる競争遊戲を行つた兒童は以外に元氣であつた。

本日は午前中に身体検査を施行せられるので學習は林間に出でず各居室にて行つた、身体検査の後講堂に集合して海水靴の配布、日課表の説明、其の後委細な注意があつて更に寄生虫検査用の糞便の採取法につき説明があつた。

午睡は本日が始めてなので色々その訓練に骨が折れてか二回目としては先づ合格だつた二時半体温検査の後、宿舍を出發して海水浴場へ向つた、水浴一時間半嬉しさに満ちた兒童は時の短かきを不満らしく陸にあげるのに仲々困難した休憩所で間食を終へて歸宿入浴夕食と順に進み定められた八時半には靜かに各室とも寢に就いた、

八月五日

月曜日

飽迄も動いて止まぬものゝ追慕者である兒等は午前八時激澁として熾烈な日光の下に躍る活動的な濃藍色の海被に身を冷さんとして海水浴の準備をして學習場へと午前八時宿舍を



出た。學習場として定められた場所は吾人の生活に必須欠くべからざる酸素を多く供給し加ふるに水分の蒸發を制限調節して常に大氣に適當の濕潤を保たしめ或は日光の壓蔽となり又は異風の障壁となり夏涼しく冬温かで頗る人体に適する針葉樹の繁茂する眞言宗龍谷寺の境内である。此處は宿舍より海水浴場への途中であつて兒童の途中休憩に好都合の場所である。

杉並木より分泌する一種揮發性の物質は空氣に混同して芳香性の香氣となつて吾々の嗅神經を刺戟して不隨意的に深呼吸を促して呉れるので氣が清々して指導する教員も指導される兒童も洵に良い暑苦しい室でするときも三倍も勉強が出来る様に思はれる。

學習を終へ、しばし憩ふて間食の牛乳を頂きそれから海水浴場へと歩を向けた、海水浴場附近に設けた休憩所、雄島村宿分教場で海水着と着替へて浴場に着いた。

浴場附近砂濱に設けた脱衣場、大天幕張の中で大きい結核豫防の「マーク」入り帽子に揃へた兒童は天幕の中で少時体操を行つた後、夫々自己の名札を反轉して海に入つた。輝く青搖るゝ黄金、波を切る微風、兒童水にありて一樣に歡笑した。するどく波上に泛び歡呼してまた沈む、腕を組み泛べるは荷の少め光の少め、十五分を限度として三回海に入り休憩所に戻つて衣類を着替へ晝食、午睡、午後檢温、海水浴と順に進み終つて再び休憩所に

戻つて間食をなし後豫定の時間より稍々遅れた午後五時に歸舎した、夕食後加藤教員の幹旋でおもしろく、そしてためになるお伽噺を大谷大學生の西島學生と牧學生との兩人が上手に話なされて兒童は大に慰められた、話題は西島學生のは何にも仙人牧學生のは「人真似」と申された。

八月六日 火曜日

連日の晴天で兒童は一入元氣を増した日課通り午前午後とも海水浴を爲さしめた兒童は海に入ることを大いに喜んで、或る兒童の如きは父の面會に來たのも顧みないで夢中で海にありて歡笑して居るものもあつた。夕食後は遊戯を爲し各室に戻ると蓄音機を使用して兒童を慰めた。

八月七日 水曜日

午前は例により學習後、全兒童が快き海水浴を樂しむたが糞便検査の結果、寄生虫卵保有者なること發見された、二十八名は海水浴を止めて歸舎して寄生虫の驅除薬を飲まされ舎内で休養した。

夕食後服薬せない兒童には遊戯を爲さしめた。

八月八日

木曜日

晴



入所當時、顔色蒼白、活氣乏しく體格に於ても一見薄弱なるを認知せし兒童も次第に血色良く快活にして活動力旺盛なるを見、職員一同喜ぶ。

午前平常通り海水浴をなし午後二時より浚渫船敦賀丸に便乗し、浚渫作業見學の後船内各部の説明を聞き、捨砂場たる沖台二海里餘の所まで乗り出した。波のうねり、スクリューエンジンの響、ものすごき中に、海岸の諸景次第に遠ざかるを見て、あだかも航海の途に上るかの如き思ひにこよなく喜びあへり。時あだかも船上を飛行機四臺とびまはり兒童は歡呼の聲をあげて見學せり。

午後四時三十分歸所し間食、夕食の順に日課を進め定時床につく。

八月九日

金曜日

晴

今日も亦かん／＼照りつけるらしい、朝間体操も氣持よくすませ朝食も終へて學校へ出かけた、學習場である瀧谷寺へ出る迄には二箇所の鐵道線路を踏み切らねばならない丁度毎朝通る頃八時の列車が通過することになつてゐる、そこで萬一を慮つて本日より丘上の間道を通ることとした、道は近いし危険はなし、誠によい瀧谷寺の境内は流石に静だそうして涼しい毎朝學習場の中を通つて參詣する人が數名宛あるが兒童の學習を見てこれはよい考へた、涼しくて静かだと皆云つて通る、學習も終へ間食もすませて常の如く海水浴を

行つた。午後は水上飛行機が二三機始終頭上をまわつてゐた。夕食の後、加茂先生が來られたそして齒の衛生と齒の磨き方の御指導を受けた本夕から毎夜就寢前に齒を磨いて眠る事とした、揚枝及齒磨粉等のなき者には全部配布した。

八月十日

土曜日

晴

今日の日課は常の如く何等變更はなかつた、兒童も五十二名共全部至極達者で元氣で學習も水泳もやつてゐる、水泳場には水中で遊ぶために大ボール一個と小ボール二個、砂遊び道具として小さいスコップ二十個を數日前から與へてゐるが、水中でも砂の上でも一心になつて遊び戯れてゐる、今日も水上飛行機が來て兒童を喜ばせた、一日の日課を無事に終へて夕食を済ませた。今日は金比羅神社の祭禮で御輿が竹田川より下つて海水浴場迄舟で下つた、夕食後港橋の上で上陸することゝなつてゐるので兒童を引率して見物に出たついでに新保橋の邊まで歩を伸して遊んで來た。

八月十一日

日曜日

晴

待ち焦れてゐた海水浴も今日では大分あいたらしい。八時出發の鐘が鳴つても、中々集らない。先生家へ歸りたいんです。脊中が痛いんです、歩くのがむねぐひんです等と口々に氣儘を言ふ様になつた。午後の蜆狩を樂にと漸く元氣を出させて、學習に出かけた。



全児童の學習の光景、砂遊をしてゐる處、水泳をやつてゐる處、休憩所に集つてゐる處等の寫眞を撮影された、午前の海水浴を了つて歸舎した児童は午後二時から三雙の舟に分乗して九頭龍川、下流新保橋附近で蜆狩をした。保養所へ來てゐる中の樂の最も大きいものゝ一であらう。子供は我こそ一番多く取らうと舟が着かない中からわい／＼騒いでゐる丸山先生は舟が着かない中から飛込まれて、蜆を取り子供をソツト喜ばせた。やがて舟は目的地についた。水は暖いし、流れは遅い、蜆狩には最も都合のよい日だ。児童は思ひ恩ひに河に飛込んだ。水中へもぐる者、足で踏み歩く者、手で掘り歩く者、思ひ／＼の方法でさがし始めた。けれ共蜆は案外少くて児童を落膽させた事は残念であつた。先生私一つも取れないですと泣聲を出してゐる者もあれば、取つた／＼と歡喜の聲を張あげてゐる者、石ころを拾つて無念がつてゐる者、約二時間程は各自夢我夢中で競争をした。其中時間が來たので皆舟にもどつた。

八月十二日

月曜日

晴

今日は馬鹿に暑い、海水にでもつからなければならぬ日だつた、平日の二課を終へて歸宿したのは五時頃であつた。當日は朝から坂井郡學童野球大會が中學の校庭で開かれてゐた、歸宿した頃は準優勝戦の真最中であつた、児童らはこれを觀るために入浴を忘るるも

のまでであつた。夕食後、食堂にて活動映寫をやつた、勇敢なる騎手、寄の生虫、御大禮の實寫等の數巻にて一々親切な説明があつて、児童も非常に喜んだ、常日より就寢が三十分程遅れた。

八月十三日

火曜日

晴

午前中に身体検査を行ふことゝなつてゐるので學習は宿舍で行つた、加茂先生が來られる前に身長、体重、胸圍の測定をやつたが体重は平均一疋宛の割合に増してゐた、全く増さなかつたのが五十二名の中二名だつた、よほど好成绩らしい加茂先生の診察の結果にも大した異常のあることを聞かなかつた、午後、午睡の後、海水浴に出發した、夕食後は戶外運動と懸賞の抽籤やらで大いに賑つた。

八月十四日

水曜日

晴

今日は遠足と寶釣の行事、豫定となつてゐる兒等は極度に待ちわびてゐた。賄方は早朝より晝の辨當の支度に忙殺されてゐる、學習は本校の教室で豫定の時間に終へ間食もすませた、それより、齊に遠足の準備に取りかゝつた、水筒のなき者には中學より借り受けて全児童に持たせ辨當を背負つて九時半出發した、道は可成林間を辿るべく宿の背面の高地より松林を抜けて東尋坊に着いた、簡單なる説明と小憩の後、福良の瀧にと發足した、途中



春日神社の境内でも小憩した途中は割合に涼しく海邊の男性的な美しい景色には皆快感の情を表してゐた、福良の茶屋の主人とは毎年の馴染にて何くれと世話してくれた時刻も正午近くであつた、め直ぐ晝食の準備をした、そして握飯に腹を満たした、小憩の後午睡を勤めたが兒童はどうしても應じない海水浴の支度を調べて只管に海水浴の命令を待つてゐる命令は出た兒童は一齊に崖をつたつて海水に入つた。宿の浦とは全く赴を異にして海底は小石や岩石である、四五十間位は子供の丈がたつ、その邊迄行くと雲丹もあれば、さえもゐる、海童の數多はそこまで出かけて一つ二つと採つて興がつてゐる又美しい石等頻りに拾つて興がつてゐるものもある。興はつきぬが時は進んで三時頃ともなつた皆は再び茶屋の露台に集つて歸宅の準備に取りかゝる、瀧もあるがほと名のみ瀧であるが塩分を洗ふには好都合であつた、その中、谷をへたで、向ふの林の中に莫塵笠の一人物が現れておーい／＼云つてゐる、それは縁川所長の全くの登山姿であつた、やがて出發に際し記念の撮影をして豫定の時刻迄に歸宿することが出来た、夕食の後は寶釣に各自色々な學用品を釣りあげて喜びの聲が室内に溢れてゐた。

八月十五日

木曜日

曇小雨

昨夜は小雨が時雨れてゐた、今日は海水浴に出る譯には行かぬ十六日には學藝會が開催さ

れるので午前中學習の後は、各部屋毎に思ひ／＼に學藝會の豫行演習と云ふ体で熱心に練習した、午後は縣廳より加茂醫師が來られて全兒童に對し結核反應注射を施された。

八月十六日

金曜日

晴

昨夜はどしや降りであつたが今朝はからりとした、然し風は未だ稍強い、雲も時々現れた午前は學習、間食を終へて講堂に集り學藝會を行つた何しろ申込みが二十五番迄あつたので午前は十四番行つた、午後は注射の結果の檢診を受け終つて午前の残り全部を行ふた。出演プログラムは別紙の通りであつて極めて平凡の様であるが兒童は地方が遠い學校が遠ひ學年が違つてゐる關係で仲々活氣があつた。

夕食の後は第二回の活動映寫會を食堂で催した、映畫はスキ―大會、火災豫防、廢兵の活躍等で有益で趣味に富んでゐた、本日は盆なので兒童を嬉ばしめるために朝と晝と二回に分けて、みくに新聞社の牧野和夫氏をわすらはせて五發の煙火を打ちあげて見せた、兒童の保護者も數名訪れて來た。

學藝會プログラム

一、開會の辭

二、お話 おくびやう武士

六男 加藤 廣國

五男 松崎 正



- 三、お話 くらトきつね
- 四、獨唱 大江山 浦島太郎
- 五、合唱 つばくら
- 六、綴方 飛行機
- 七、一口話
- 八、お話 けちんぼう大将
- 九、獨唱 よしつね
- 一〇、ハーモニカ、夕やけ小やけ
- 一一、遊戯 日和傘
- 一二、お話 ちやびんごどびん
- 一三、お話 魚が神様になつた話
- 一四、劇 マリーのきてん
- 一五、獨唱 水師營の會見

- 三男 松田幸雄
- 二男 松下英文
- 三女 緑川秋子
- 同 高津鋼
- 三男 加納憲男
- 同 上田賢次郎
- 五男 横山弘
- 三男 齋藤國三郎
- 同 鈴木俊夫
- 二男 龜田芳子 外五名
- 六男 寺島利鏡
- 三男 松下武
- 三男 清田泰堅
- 五男 龜田 外七名
- 五男 横山 弘

- 一六、合唱 螢かご
- 一七、フ、とバンく
- 一八、お話 三人のくせ
- 一九、獨唱 古い、いす
- 二〇、合唱 黄金虫
- 二一、お話 くらげの使者
- 二二、お話 そこつ者
- 二三、遊戯 小人の國
- 二四、ハーモニカ、二重奏
- 二五、合唱 兒島高德、日本海々戦

- 三男 緑川 外二名
- 六男 魚住俊夫
- 六男 佐々木時男
- 五女 藤堂二葉
- 六男 小林 外四名
- 六男 山田 彌
- 同 加藤廣國
- 松 下 外三名
- 戸田、加藤、有村
- 佐久土 義一
- 緑川 俊徳

八月十七日 土曜日 晴

今日は朝から晴れては居るが、随分涼しかったので、學習は學校でやつた。毎日の日課にしてゐる海水浴が、雨やら検査の爲め二日もできなかつたので、子供達はもう海に行きたい心で一ぱいであつた。げれ共今日は風が強く海が非常に荒れてゐるので、子供の水泳に



は危険千万である。海に入る事に大變迷つたが、もう子供達はどうしても聞かぬ。海に入る命令の一刻も早からん事を待つてゐる。やむなく我等は特別安全地帯を作つて、海に入らせた。保養所へ來てから始めての大波だ。高い波がやつて來る度に、大聲をあげて喜んだ。寒くなつてふるくふるへ乍らも上らうとしない。子供は斯うした危険を冒すことに言はれぬ痛快を感じるのであらう。午前一回、午後二回海に入つた。夕食後蓄音機を聞かせて喜ばせた。

八月十八日

日曜日

晴

風も靜穩に復せず聚雨は時々やつて來る今日も全然水泳は駄目だった、海の高鳴は終日聞えてゐた。朝間体操の節は丁度雨も降らなかつたから三國神社へ參拜した、明日は音樂會が開かれることになつてゐる、然し晴れれば海に行き度いと思つて一日繰り上げて本日午後開催することにした、そのため午前は學習後よりその練習として各部屋毎に獨練習を行つた午後は午睡の後本校の講堂で音樂會を開催した、プログラムは次の通りであるが、いづれも無邪氣に出演したその上女子師範の生徒が二名參加してくれて一層興を添へてくれた、夕食後は二十三日に開かれる最後の學藝會の準備に早くも着手したが部屋毎に種々なる豫行演習が演ぜられてゐた、明日は天氣になるらしい。

音樂會プログラム

- 一、汽 車
- 二、虹
- 三、浦島太郎
- 四、ハーモニカ
- 五、ちんく千鳥
- 六、瀬戸内海
- 七、那須與一
- 八、とんび
- 九、荒城の月
- 一〇、露の白玉
- 一一、文福茶釜
- 一二、やなぎ
- 一三、軍艦マーチ
- 一四、たかね

- 三室 松田 外一名
- 四室 小林 とし子
- 三室 寺 島
- 二室 戸田 寛
- 五室 藤堂 二葉
- 一室 鈴木、佐久士
- 三室 松 崎
- 四室 松 下 百合子
- 三室 横山 弘
- 五室 藤堂、龜田
- 一室 魚住 俊夫
- 四室 角田すみ子 外一名
- 三室 田 島 外一名
- 四室 藤堂千代子 外一名



一五、ハーモニカ

一六、須磨

番外 齊唱

二室 佐々木 時 男

四室 山口道子 外三名

女師生 清水静子、竹山俊子

八月十九日

月曜日

雨後晴

天候未だ定らず聚雨が時々やつて来た、朝禮の時は幸ひ霽れてゐたので加戸村角善迄散歩に出かけた午前中は學習の中より時雨れてゐたので學習後は各室にて自由遊戯をして遊んだ。午後午睡の頃から霽れて来た、海の音は相當強く聞えてゐたが降らざれば出ると云ふ方針で海に行つた、はたして波は高かつた。然し高ければ高い程興味はあつた、冷氣も強からうと思つてゐたが海水温度が氣温より高かつたため何等の障もなかつた、夜間は割合早く就寝した。

八月二十日

火曜日

雨後晴

今日の天候の工合は全く昨日と同じだつた、午前中は時々しけて来た、今迄は學習と云へば毎日林間で行はれたが昨今は中學の校舎を使ふより方法がなかつた、午前中はやはり昨日の如く學習後は各室にて室内遊戯を行つた、午後は中學の同窓會の餘興、浪花節を聴かせる積りでゐたが空が次第に霽れさうになつて来たので午睡の後勇を振つて水泳に出かけた。今迄は連日水泳場は幾千人となく多數の人出であつたが今日迄は二十人とは来てゐなかつた、海に入る事一回にて聚雨がやつて来たので、休憩所に集合、間食をすませて雨の止むを待つてゐた、幸ひ歸路は雨にも合はず目的を達して歸宿した。

八月二十一日

水曜日

曇時雨數回

今日は崎浦方面に遠足することになつてゐる、十時頃より雨は霽れた、所長は最後の遠足として雨具携帯の強遠足を斷行するに決意された、遠足準備を整へ道は宿舍の後方の山路を辿つた。雨に濕つた山路は歩行に相當苦心した、その上道が不案内のため迂回に迂回して一時近く漸く目的地に到着した、その間一度の休憩もなく子供も相當疲勞の色を表したしかしさすがに崎浦の風光に接して辨當にかじりついた時は、愉快さうな心を面に表した小憩の後濱地の海岸に出た、そこに松の根方に脱衣して海濱で遊ぶことにした、波は非常に高く海は一、二間にして數尺の深みとなつてゐるので非常な注意を要した、女兒には小石拾ひや貝拾ひに夢中になつてゐるのもあつた、盡きせぬ興に時を移し三時をすぐる頃歸路についた途中濱地の願教寺にて小憩、林間を縫つて歸宿した。二三年の子供の半日の行程しかも山路の上の時雨にも二三回あつたため無理な遠足のやうではあつたが幸ひにして一同事なく歸宿後は仲々の元氣であつたので保養所の効果を眼前に見る事を得たと所長



は非常に喜んで居た、夜は子供の疲勞を考へて八時頃就寝せしめた。

八月二十二日 木曜日 雨

今日は終日雨が降つた、午前學習の後加茂先生が來られて最後の身体検査を行つた初回より見て成績は頗る良好だつた、引き続き第一回のビルケー氏反應試験の強かつた者二十名に對して再度の試験を行はれた。

午後は午睡の後、本校内体操遊戯を爲し終つて音樂會を開催したその日丁度三國南小學校の女兒六年が三十數名當所に訪れて音樂會にも參加して呉れた臨時の催しとしては甚だ盛んであつた。プログラムは左記の通りである。

- 一、可愛い子供
  - 二、兎と龜
  - 三、虹
  - 四、新入生
  - 五、ハーモニカ
  - 六、春が來た
  - 七、あした 歌のけいこ
- 五 號 室
  - 松 下 外三名
  - 加 納 外一名
  - 南 校 數名
  - 有 松
  - 松 田
  - 藤 堂、二葉

八、朝寢

九、廣瀬中佐

- 一〇、かへろく
  - 一一、田舎の四季
  - 一二、星の界
  - 一三、出船の港いちご
  - 一四、兎
  - 一五、日本海々戰
  - 一六、旅人の歌 白兎
  - 一七、お江戸日本橋
- 南 校 金 森
  - 戸 田 外五名
  - 南 校 數名
  - 松 下 百合子
  - 鈴 木 外一名
  - 南 校 數名
  - 小 林 とし子
  - 横 山
  - 南 校 數名
  - 同

八月二十三日 金曜日 晴

最終の日は來た、數日來の雨は全く霽れて晴れやかな朝日を拜する事が出來た、最終の日と云へば海戀しの情は一層燃えた、午前の學習はすんだ、水泳準備も整つて元氣に海へと出發した三週間と云ふ長い間通ひ馴れた通路は一層なつかしく感せられたらしい海の波は極めて穏かであつた、水温は氣温よりずつと暖かであつた、海濱には數名の浴客があたば



かりで静かである、子供達は最後の海として勢よく泳ぎ戯れた時はすでに午近くになつたが、つきぬなごりにあがらうともしなつた海に別れを告げて休憩所にて小憩の後一部土物産等を購入し歸宿した午後はいよく閉所式である二時頃すでに準備整ひ來賓として江坂中學校長、奥三國町長代理が見えた、先づ一統敬禮の後緑川所長の式辭續いて江坂校長來賓を代表して祝辭あり後丸山先生の愛と惜別の情のこもつた離別の辭ありて式は閉ぢた。式後引き續き茶話會と學藝會を行ひ第二回の寶つりを行つて、いづれも面白き中に殊に寶釣には一入の興を添へた、入浴の後夕食についたが、最後の夕食として笑ひ聲の絶ゆる時がなかつた、夜は室のとり片つけ明日の歸宅準備等に忙しく女兒の如きは惜別の情にたえず嗚咽に沈んでゐた。

茶話會順序

- 一、開會の辭
- 二、子守歌
- 三、一口話
- 四、おはなし
- 五、ダンス

- 戸田 寛
- 藤堂君子 外一名
- 面屋 よし子
- 森瀬 哲男
- 吉田 外五名

- 六、おはなし
- 七、おはなし
- 八、ダンス
- 九、おはなし
- 一〇、同
- 一一、同
- 一二、同
- 一三、唱歌
- 一四、おはなし
- 一五、同
- 一六、對話
- 一七、マリーのきてん
- 一八、一口話
- 一九、かま盗人
- 二〇おはなし

- 清田 泰 堅
- 横山 弘
- 松下 外二名
- 面屋 よし子
- 山田 彌
- 加納 憲男
- 山本 藤四郎
- 佐久士 外二名
- 北川 登
- 上田 賢次郎
- 山口 外六名
- 加藤 外七名
- 佐久士 義一
- 田島 外六名
- 松下 武



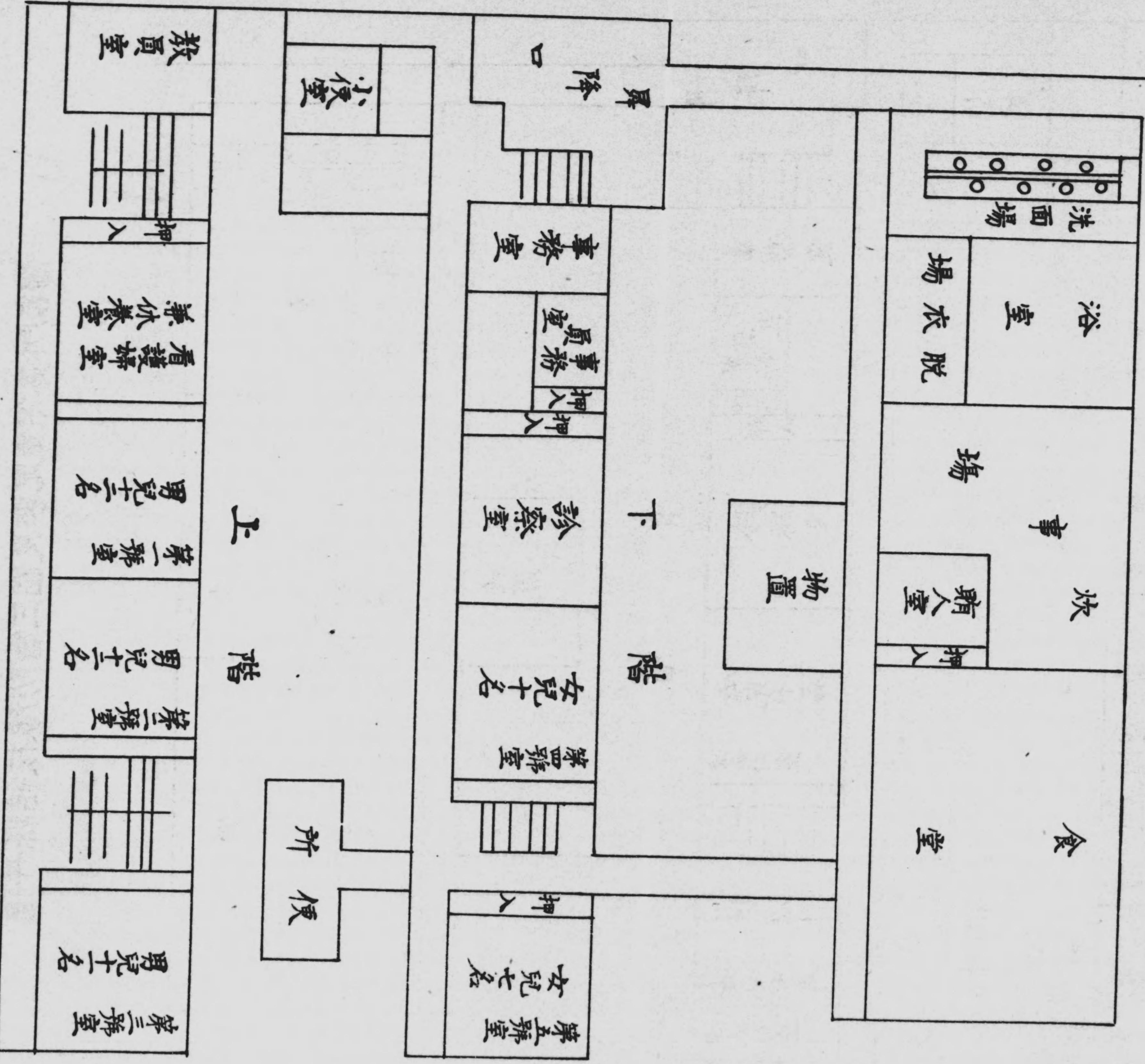




は止めなかつた朝食前後より父兄の顔がぼつ／＼見えた、そうしてぼつ／＼歸路に就いた者もあるが多くの十時十八分の列車で一同元氣よく三國驛を出發した。  
 今後はいつまでも子供の頭には保養所の事が浮ぶであらう？  
 關係職員も又未長く可憐なる兒童の印象は忘れ得ぬことであらう。



圖器所養保童兒季夏國三會防豫核結縣井福





826  
323

昭和四年十一月十日印刷  
昭和四年十一月三十日發行

福井縣警察部衛生課內

編輯人 綠川 門彌

福井市佐佳枝中町一四二番地

印刷人 和久本 金治

電話七四一番

福井縣警察部衛生課內

發行所 社團法人 福井縣結核豫防會

福井縣警察部衛生課內  
福井市佐佳枝中町一四二番地  
和久本 金治  
印刷





